

播磨町スポーツ推進計画

“スポーツ・フォー・オール はりま”プラン

平成25年4月

播磨町教育委員会

目 次

第1章 推進計画の概要

1. 推進計画の目的	1
2. 基本理念と使命	1
3. 推進計画の位置づけと期間	2
4. 推進計画のモデル図	3

第2章 播磨町における運動・スポーツの現状と課題

1. “するスポーツ”の現状と課題	4
(1) 運動・スポーツの実施頻度	4
(2) 運動・スポーツの実施時間	7
(3) 運動・スポーツの実施ステージ	9
(4) 運動・スポーツの実施仲間	11
(5) 運動・スポーツの実施種目	13
(6) 今後行ってみたい運動・スポーツ種目	14
(7) 運動・スポーツクラブやチームへの加入状況	15
(8) スポーツ行事への参加状況	18
(9) 運動・スポーツの阻害要因	19
2. “みるスポーツ”の現状と課題	20
(1) 運動・スポーツの情報源	20
(2) 運動・スポーツの情報ニーズ	21
(3) 運動・スポーツ施設への要望	22
(4) 公共の運動・スポーツ施設への要望	23
(5) 播磨町のスポーツ関連イベントやクラブチーム	24
3. “ささえるスポーツ”の現状と課題	25
(1) スポーツボランティアの参加状況	25
(2) スポーツボランティアの活動内容	26
(3) スポーツボランティアへの参加意志	27
(4) 障がい者スポーツへのかかわり	28
(5) 障がい者スポーツの普及・振興に対する要望	29
(6) 運動・スポーツに影響を及ぼす重要な他者	30
4. 播磨町への愛着度	32
(1) 住民の播磨町への愛着度	32
(2) 運動・スポーツクラブやチームへの入会・未入会と播磨町への愛着度	34
(3) 運動・スポーツ実施・非実施と播磨町への愛着度	36

5 . まとめ	38
---------------	----

第3章 播磨町のスポーツ推進政策

1 . “ するスポーツ ” の推進	39
重点分野 1 幼児、子どもの実施者を増やします	39
重点分野 2 成人、高齢者の実施者を増やします	39
重点分野 3 女性、障がい者の実施者を増やします	40
2 . “ みるスポーツ ” の推進	41
重点分野 1 身近なスポーツ環境を整備します	41
重点分野 2 スポーツ情報の収集・発信を充実します	41
重点分野 3 「観る」 「見る」 「診る」 スポーツを推進します	42
3 . “ ささえるスポーツ ” の推進	43
重点分野 1 指導者の養成と活用を推進します	43
重点分野 2 スポーツボランティアの育成と活用を推進します	43
重点分野 3 顕彰制度の充実を図ります	44
4 . “ 連携・協働による好循環 ” の創出	45
重点分野 1 行政及びスポーツ団体と学校との連携・協働を推進します	45
重点分野 2 行政及びスポーツ団体と健康・福祉分野との連携・協働を推進します ...	45
重点分野 3 行政及びスポーツ団体と障がい者スポーツ分野との連携・協働を推進 します	45
重点分野 4 「はりまスポーツフォーラム」を創設します	46
【参考資料】	
播磨町スポーツ振興基本計画検討委員会設置要綱	47
播磨町スポーツ振興基本計画検討委員名簿	48

第1章 推進計画の概要

1. 推進計画の目的

わが国では、少子高齢化や情報化が進み、人間関係が希薄化するなどの問題に伴い、地域コミュニティの再生や生きがいづくり、心の豊かさを求める生活スタイルの構築などが社会的課題になっています。また、グローバル化に伴い国際的な交流・協力が活発になる一方、国際競争も激化するなど、わが国を取り巻く社会環境や価値観は急速な変化を遂げています。

こういった社会の変化のなか、スポーツの価値や意義が高まり、スポーツを通して、すべての人々が幸福で豊かな生活を営むことのできる社会の創出が求められています。平成23(2011)年8月24日に50年ぶりに改正・施行された「スポーツ基本法」は、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利であり、スポーツが青少年の健全育成や地域社会の再生、心身の健康保持増進、社会・経済の活力の創造、わが国の国際的地位の向上など、国民生活において多面的な役割を担うことを強調しています。

『播磨町スポーツ推進計画“スポーツ・フォー・オールはりま”プラン』は、住民一人一人が、体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、運動・スポーツに親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ環境の充実により、日々の人生を楽しみ、お互いをささえるまちづくりを目指します。

2. 基本理念と使命

<基本理念(ヴィジョン)>

“するスポーツ”、“みるスポーツ”、“ささえるスポーツ”を推進し、すべての住民が元気で活動的な生活スタイル(アクティブライフ)¹⁾を楽しむことができる環境を創る

1) アクティブライフ：主体的で、活動的で、健康的な生きかた。アクティブライフを実践することにより、健康寿命が伸び、生活の質(Quality of Life)が高まる。

<使命(ミッション)>

すべての住民、スポーツ団体、行政などが参画し、ささえ、連携・協働し、スポーツ・フォー・オール²⁾のまち、はりまを創る

2) スポーツ・フォー・オール(Sport for All)：幼児・子どもから青年、成人、高齢者、障がい者を含み、誰もが手軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりとプログラムの提供を進めていくという社会的ムーブメント

この計画では、「する」、「みる」、「ささえる」をキーワードに、スポーツを日常の生活活動や運動を含み、幅広く捉え、住民が日々の生活の中でスポーツを身近に感じ、実践できる環境づくりを目指します。

3 . 推進計画の位置づけと期間

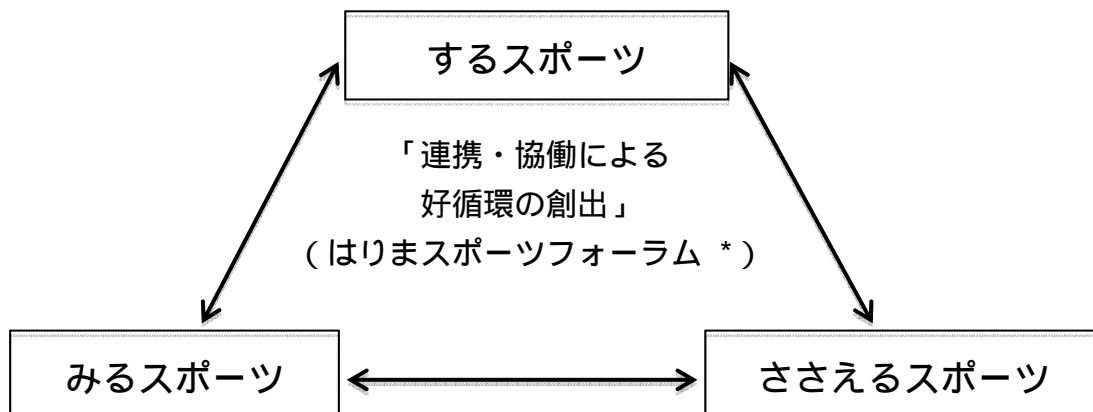
本計画は、スポーツ基本法第 10 条に基づく地方スポーツ推進に関する計画です。国の「スポーツ基本計画」(平成 24 年 3 月策定)や「兵庫県スポーツ推進計画」(平成 24 年 12 月策定)を参酌し、播磨町の現状や課題、特色に即した独自の計画として策定するものです。

本計画は、平成 25 (2013) 年度から概ね 10 年間を見据え、目標年次を平成 34 (2022) 年度とします。社会情勢や国の動向などを踏まえながら、施策の評価を P D C A サイクルに結び付けるため、平成 29 (2017) 年度頃に見直しを行うこととします。

4. 推進計画のモデル図

図1は、播磨町スポーツ推進計画 “スポーツ・フォー・オール はりま” プランのモデル図を示しています。

播磨町スポーツ推進計画 “スポーツ・フォー・オール はりま” プラン			
<基本理念(ヴィジョン)>			
“するスポーツ”、“みるスポーツ”、“ささえるスポーツ”を推進し、すべての住民が元気で活動的な生活スタイル(アクティブライフ)を楽しむことができる環境を創る			
<使命(ミッション)>			
すべての住民、スポーツ団体、行政が参画し、ささえ、連携・協働し、スポーツ・フォー・オールのまち、はりまを創る			
<政策目標>			
“するスポーツ” の推進	“みるスポーツ” の推進	“ささえるスポーツ” の推進	“連携・協働による 好循環”の創出
<重点分野>			
1. 幼児、子どもの実施者を増やす 2. 成人、高齢者の実施者を増やす 3. 女性、障がい者の実施者を増やす	1. 身近なスポーツ環境の整備 2. スポーツ情報の収集・発信 3. 見守るスポーツ、診るスポーツの推進	1. 指導者の養成と活用 2. スポーツボランティアの育成と活用 3. 顕彰制度の充実	1. 行政及びスポーツ団体と学校との連携・協働 2. 行政及びスポーツ団体と健康・福祉分野との連携・協働 3. 行政及びスポーツ団体と障がい者スポーツ分野との連携・協働 4. 「はりまスポーツフォーラム」の創設



* 住民、行政、スポーツ団体、学校等が連携・協働し、交流する場として「はりまスポーツフォーラム」を創設します。

図1 播磨町におけるスポーツ推進計画モデル図

第2章 播磨町における運動・スポーツの現状と課題

播磨町では平成23(2011)年10月に「播磨町民の運動・スポーツに関する意識調査」(以下「町民スポーツ意識調査(2011)」という)を実施しました。配布数は1,500、回収数は579(回収率38.6%)でした。播磨町における運動・スポーツの現状と課題について、「体力・スポーツに関する世論調査(平成21年9月)」(以下「全国調査」という)と「平成22年度兵庫県県民スポーツ意識調査」(以下「県調査」という)と比較しながら検証します。

1. “するスポーツ”の現状と課題

播磨町の住民は、運動・スポーツをどのくらい実施しているのでしょうか。播磨町における“するスポーツ”の現状と課題は次のとおりです。

(1) 運動・スポーツの実施頻度

図1-1は、播磨町民の過去1年間の運動・スポーツの実施頻度を示しています。「ほぼ毎日」が9.7%、「週に3日以上6日未満」が16.1%、「週に1~2日」が20.3%、「月に1~3日」が16.1%となっています。「週1回以上」の「定期的運動・スポーツ実施者」は46.1%です。この値を全国調査と県調査とで比較すると、全国調査では58.3%、県調査は54.5%であり、やや下回る結果となっています。また、週3日以上の実施者をみると、播磨町25.8%、兵庫県26.1%、全国30.2%となっています。

性別において、男性では「週1~2日」が20.5%(全国調査:28.0%、県調査:31.6%)と最も高くなっています。次いで「月に1~3日」17.3%(全国調査:25.0%、県調査:15.5%)、「週に3日以上6日未満」16.5%(全国調査:29.4%、県調査:24.4%)の順となっています。女性では「行わなかった」が26.2%(全国調査:項目なし、県調査:15.8%)と最も高い割合を示しています。以下順に「週1~2日」20.4%(全国調査:28.3%、県調査:25.9%)、「週に3日以上6日未満」15.9%(全国調査:31.0%、県調査:26.4%)、「月に1~3日」15.2%(全国調査:21.9%、県調査:14.7%)となっています(図1-2)。女性よりも男性の方が、実施頻度が高いことがうかがえます。

年代でみると、70代の約60%(全国調査:86.7%、県調査:67.9%)が、60代の約55%(全国調査:73.0%、県調査:67.2%)が、週に1日以上運動・スポーツを実施しており、他の世代よりも実施頻度が高くなっています。20代の週1日以上運動・スポーツを実施している割合は約3割(全国調査:32.0%、県調査:45.4%)であり、70代の半数にとどまっています(図1-3)。「行わなかった」と回答した割合が高いのは、20代27.1%と40代34.8%であり、この年代の実施頻度をあげていくことが求められます。

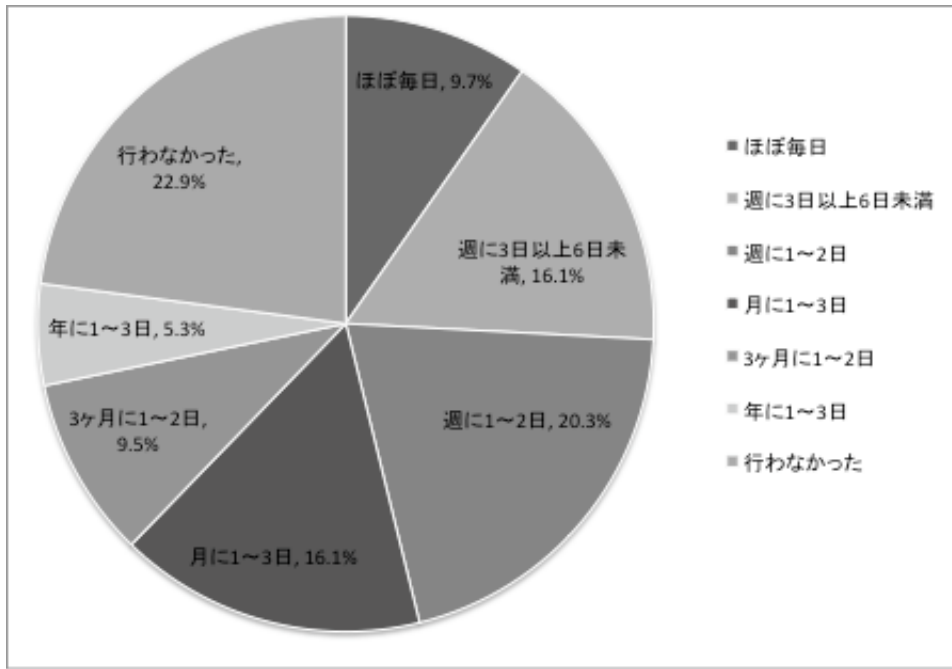


図 1-1 過去 1 年間の運動・スポーツの実施頻度

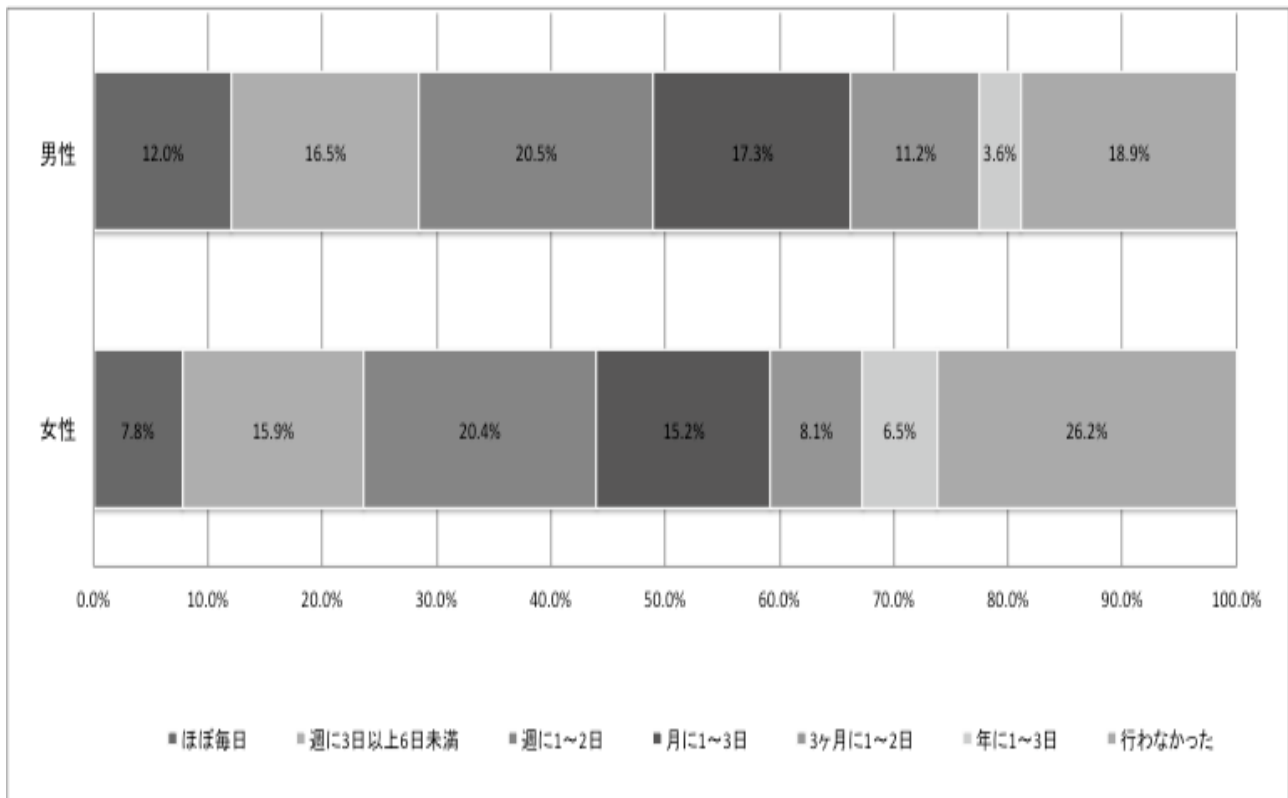


図 1-2 過去 1 年間の運動・スポーツの実施頻度（性別）

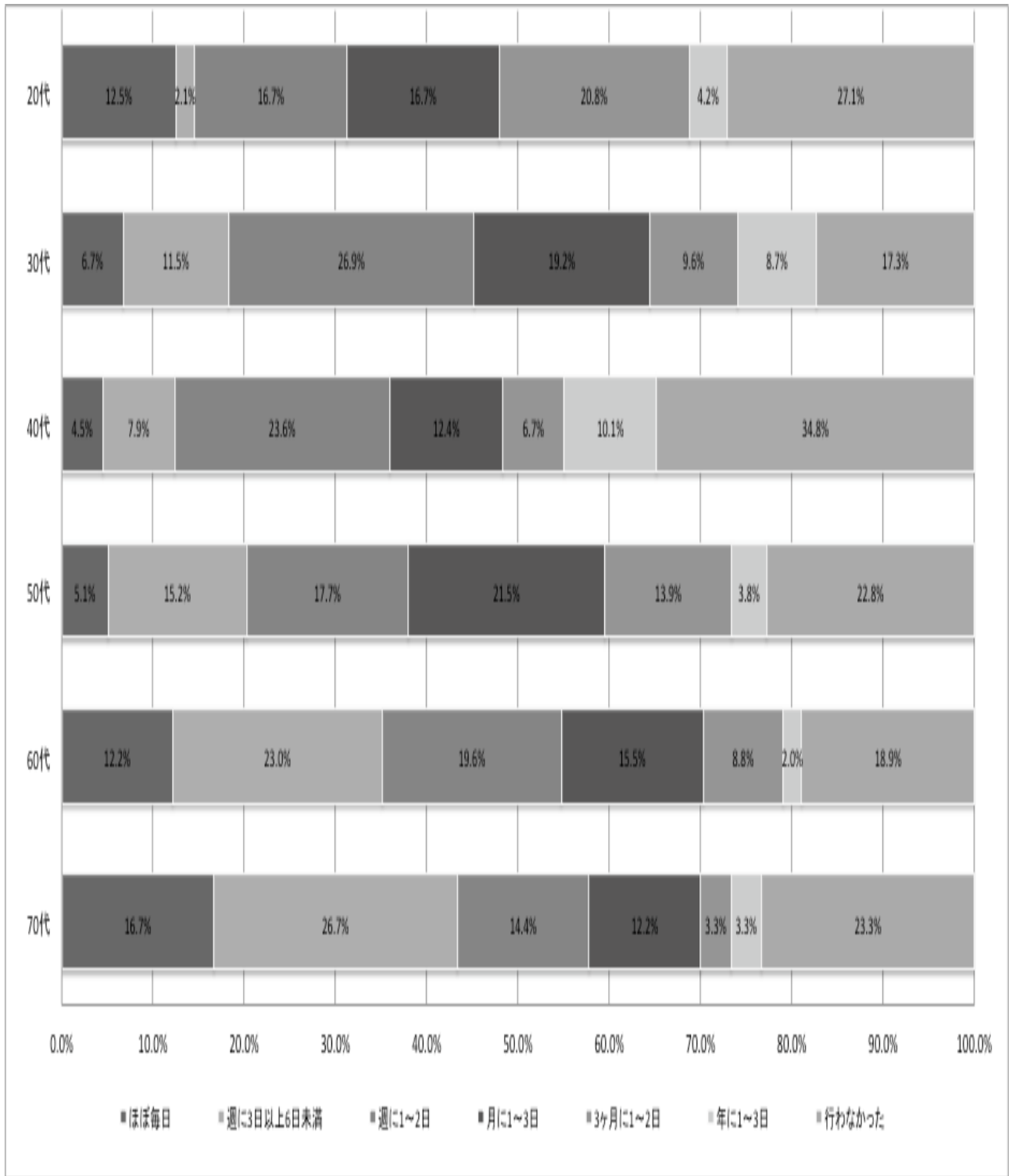


図 1-3 過去 1 年間の運動・スポーツの実施頻度（年代別）

(2) 運動・スポーツの実施時間

図1-4は、運動・スポーツの実施時間を示しています。第1位は「平日の午前」34.5%（県調査：23.2%）、第2位は「特に決まっていない」22.6%（県調査：34.5%）、第3位は「平日の午後」22.4%（県調査：19.5%）、第4位は「平日の夜」19.5%（県調査：18.2%）、第5位は「休日の午後」17.0%（県調査：24.2%）の順です。平日に運動・スポーツを行っている住民が多いことがわかります。

性別でみると、男性では「平日午前」、「休日午前」、「決まっていない」が25.7%（県調査：「平日午前」19.4%、「休日午前」34.4%、「決まっていない」32.4%）で最も割合が高くなっています。以下「休日午後」21.5%（県調査：30.5%）、「平日午後」20.4%（県調査：16.3%）となっています。女性では「平日午前」が41.4%（県調査：26.5%）と最も高い割合を示しています。以下「平日午後」23.7%（県調査：21.5%）、「平日夜」22.3%（県調査：21.0%）となっています（図1-5）。男女とも平日に運動・スポーツを実施している割合が高いといえます。

年代別でみると、20代では「決まっていない」が27.3%（県調査：38.0%）で最も高い割合を示し、第2位は「平日午後」24.2%（県調査：18.6%）、第3位は「平日夜」と「休日午後」21.2%（県調査：「平日夜」23.3%、「休日の午後」35.7%）の順です。30代では「平日午前」が31.3%（県調査：11.7%）と最も高く、第2位は「平日夜」27.7%（県調査：22.1%）、第3位は「休日午前」と「決まっていない」21.7%（県調査：「休日午前」27.0%、「決まっていない」34.4%）となっています。40代において最も高い割合を示したのは「平日夜」の35.2%（県調査：24.1%）です。以下順に「平日午前」29.6%（県調査：13.7%）、「休日午後」27.8%（県調査：39.4%）となっています。50代では、第1位が「平日午前」36.2%（県調査：16.2%）、第2位が「平日午後」27.6%（県調査：17.2%）、第3位が「休日午後」22.4%（県調査：26.8%）となっています。60代においては「平日午前」が36.7%（県調査：33.1%）と最も割合が高く、以下順に「平日午後」30.3%（県調査：23.8%）、「決まっていない」23.9%（県調査：34.2%）の順です。70代では「平日午前」が49.3%（県調査：43.4%）と約半数を占めています（図1-6）。年齢が上がるにつれて「平日午前」に運動・スポーツを実施する傾向にあります。

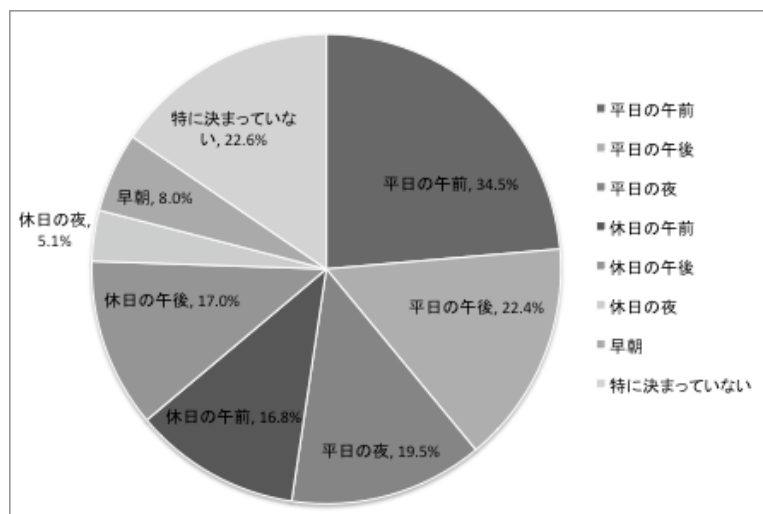


図1-4 運動・スポーツの実施時間

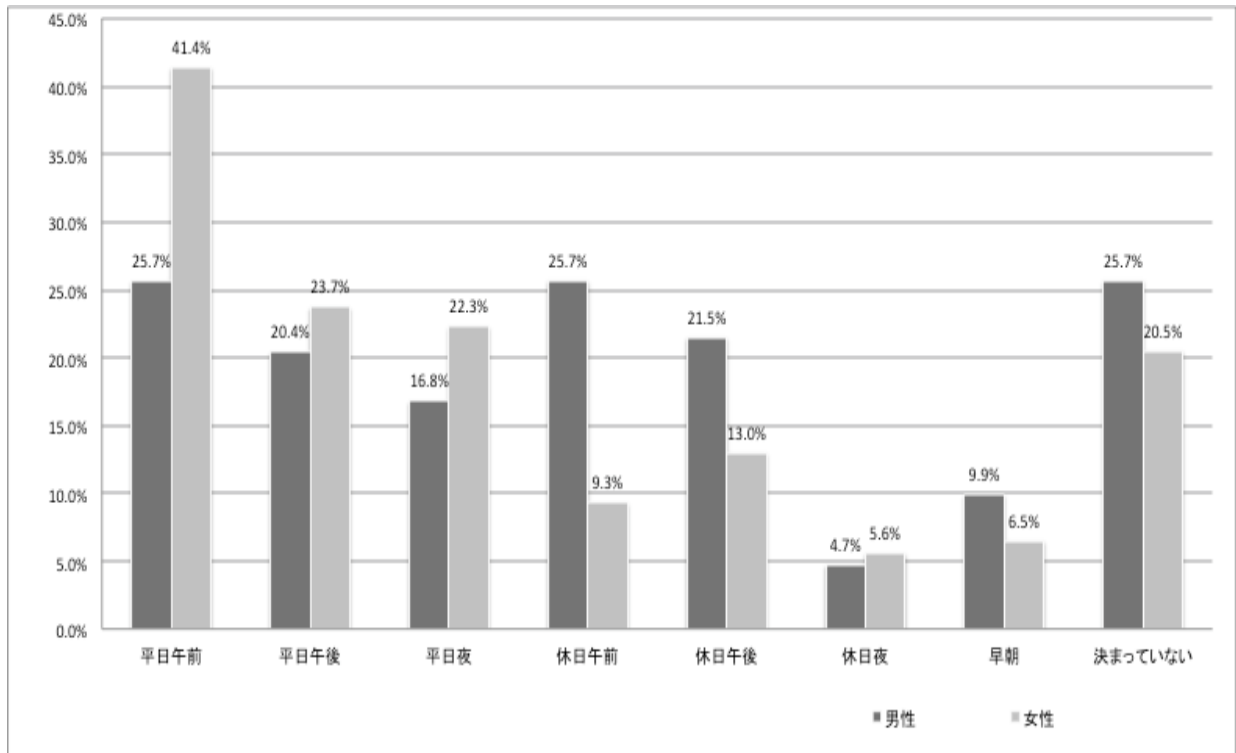


図 1-5 運動・スポーツの実施時間（性別）

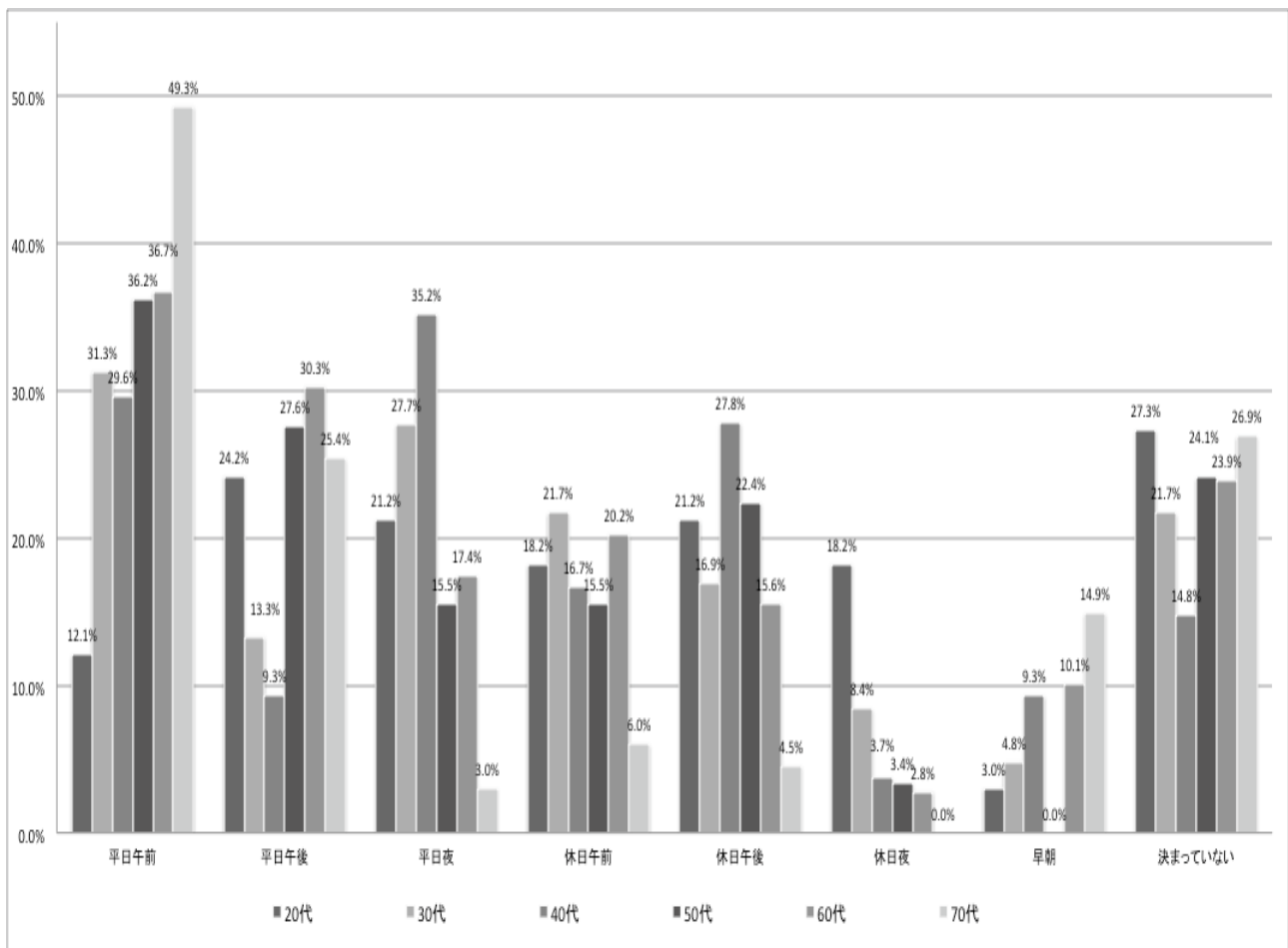


図 1-6 運動・スポーツの実施時間（年代別）

(3) 運動・スポーツの実施ステージ

図1-7は、運動・スポーツの実施ステージを示しています。最も高い割合を示したのは「現在運動・スポーツをしておらず、今後6ヶ月以内に始めるつもりもない」の32.8%であり、以下「定期的な運動・スポーツを6ヶ月以上継続して行っている」26.9%、「現在運動・スポーツをしているが、定期的ではない」25.0%の順です。継続的に運動・スポーツを実施している住民が約半数存在しています。

性別において、男性の第1位は「現在運動・スポーツをしているが、定期的ではない」31.1%、第2位は「現在運動・スポーツをしておらず、今後6ヶ月以内に始めるつもりもない」28.0%、第3位は「定期的な運動・スポーツを6ヶ月以上継続して行っている」26.0%となっています。女性の第1位は「現在運動・スポーツをしておらず、今後6ヶ月以内に始めるつもりもない」の36.8%、第2位は「定期的な運動・スポーツを6ヶ月以上継続して行っている」の27.3%、第3位は「現在運動・スポーツをしているが、定期的ではない」の20.6%となっています(図1-8)。6ヶ月以上継続して行っているという「継続群」は、性差はそれほどみられません。

年代でみると、「現在運動・スポーツを6ヶ月以上継続して行っている」が70代で47.2%と最も高い割合を示しており、継続して運動・スポーツを実施していることがうかがえます。一方、「現在運動・スポーツをしておらず、今後6ヶ月以内に始めるつもりもない」が20代45.1%、40代47.3%となっており、無関心期にいる人の割合が高いことがわかります(図1-9)。

運動・スポーツに対して無関心期にいる人が、全体で32.8%、男性で28.0%、女性で36.8%となっており、この無関心期にいる人をいかに関心期、継続期へと変化させるかが課題といえます。

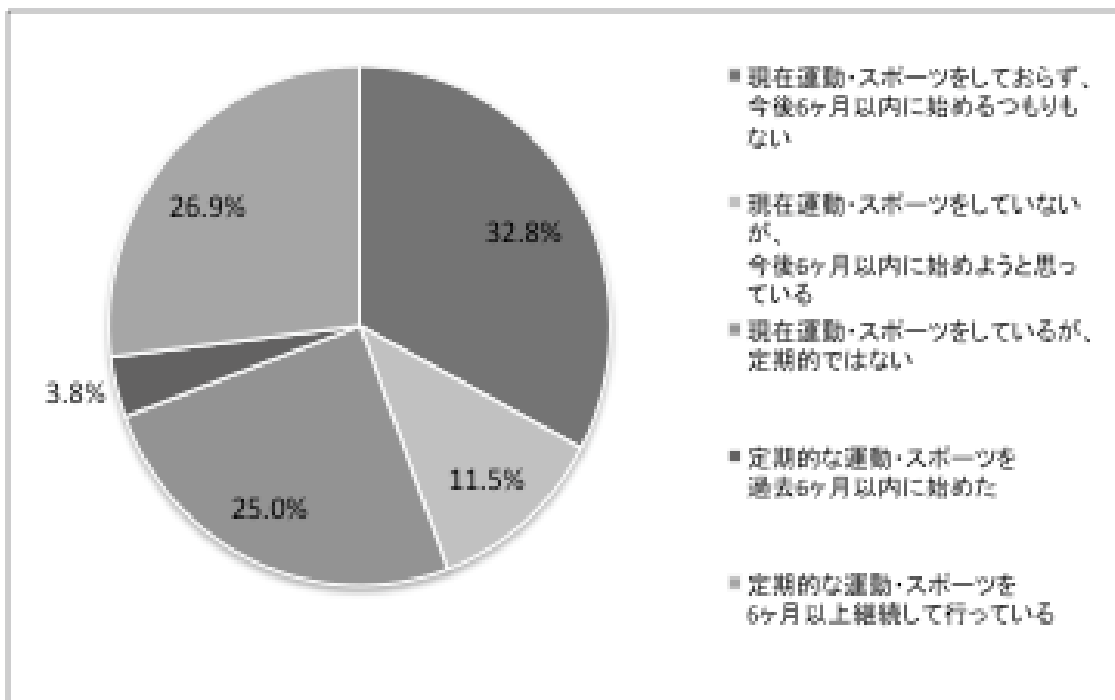


図1-7 運動・スポーツの実施ステージ

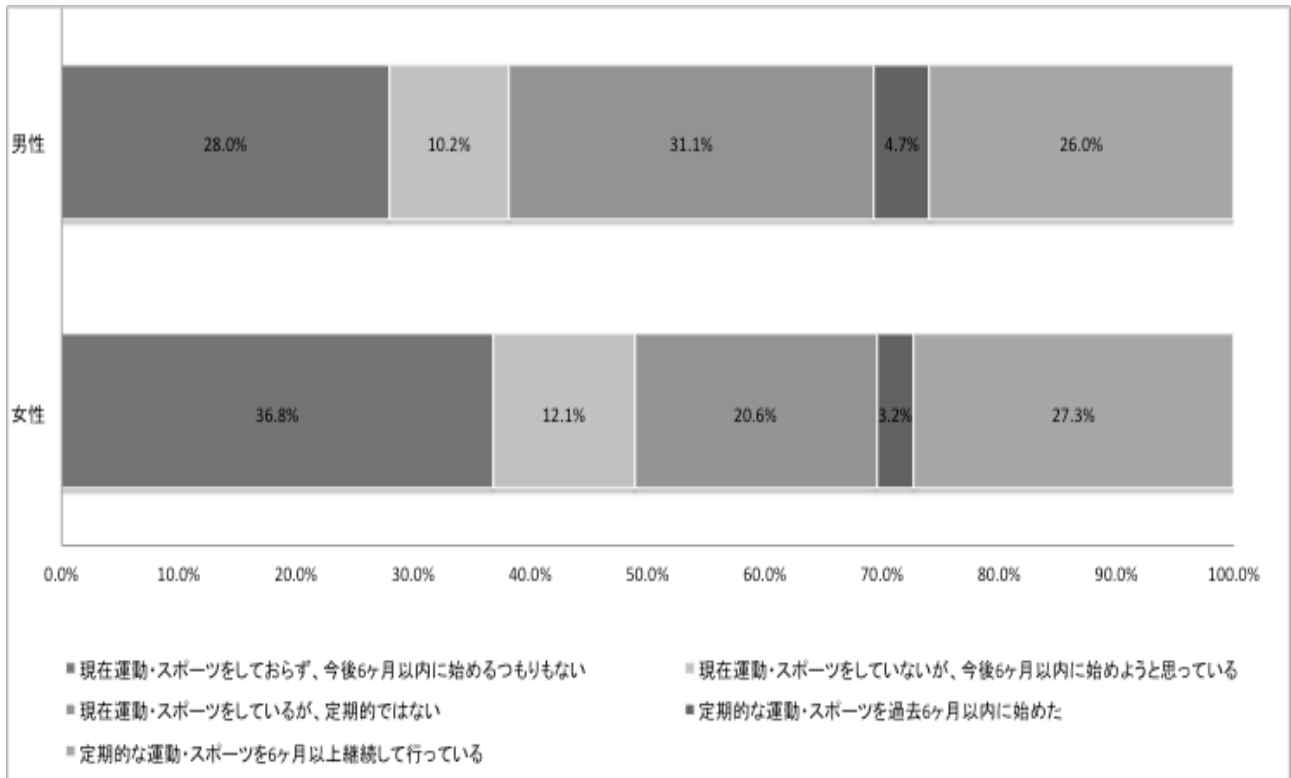


図 1-8 運動・スポーツの実施ステージ（性別）

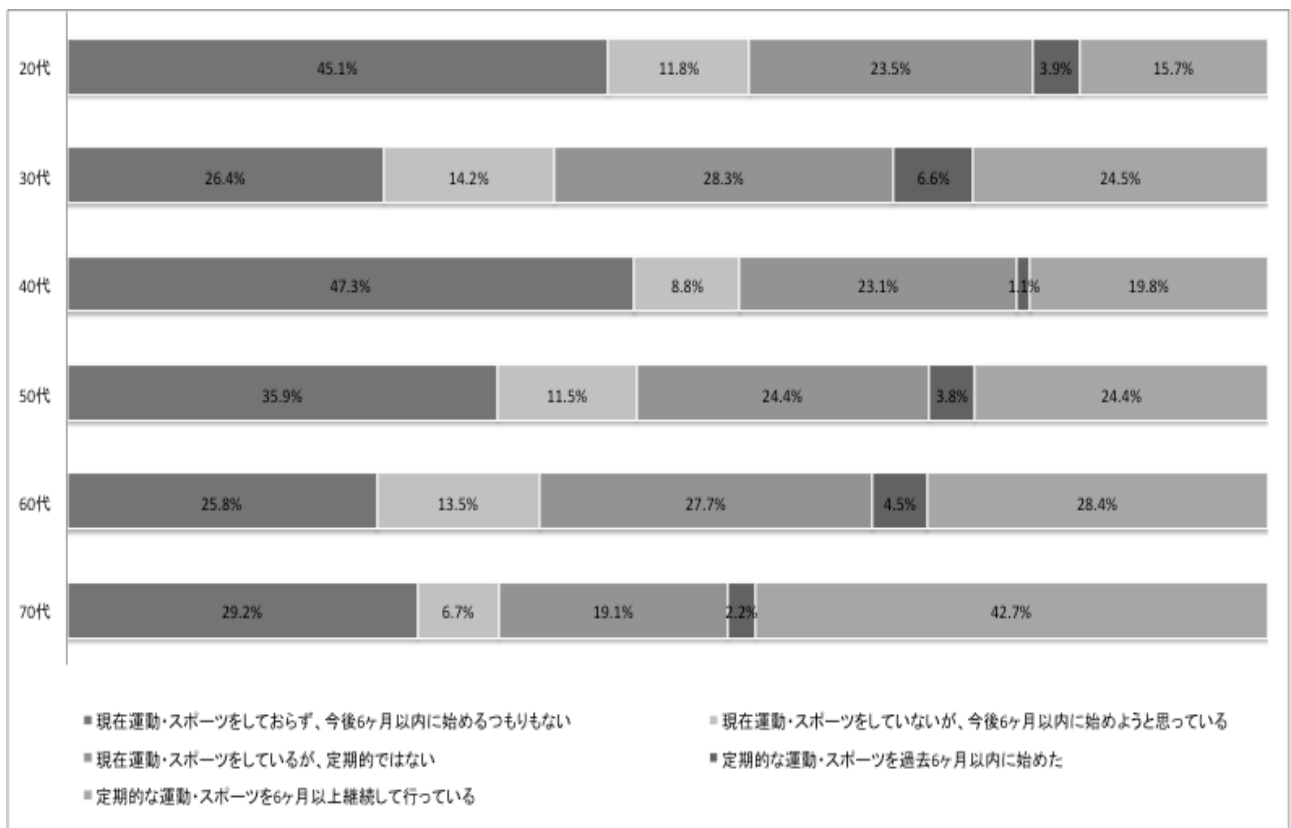


図 1-9 運動・スポーツの実施ステージ（年代別）

(4) 運動・スポーツの実施仲間

表1-1は、運動・スポーツの実施仲間（性別）を示しています。全体では「自分一人で」が51.4%（県調査：59.6%）と約半数となっています。

性別で見ると、男女ともに「自分一人で」が最も割合が高くなっています。男性では61.7%（県調査：63.9%）、女性では42.3%（県調査：56.7%）と、女性よりも男性の方が約20ポイント高く、男性は一人で運動・スポーツを実施していることがうかがえます。以下順に、「友人と」、「家族と」、「サークルやクラブの人と」と続いています。運動・スポーツの実施形態は、「一人」、「友人や仲間」、「家族」の3つが中心です。

表1-1 運動・スポーツの実施仲間（性別）

運動・スポーツの実施仲間	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
自分一人で	51.4%	61.7%	42.3%
家族と	31.5%	26.9%	35.6%
友人と	33.6%	28.5%	38.3%
職場の人や学校の仲間と	11.6%	15.0%	8.6%
自分が住んでいる町内会の人と	12.8%	16.6%	9.9%
サークルやクラブの人と	23.9%	19.2%	28.4%
その他	2.8%	1.6%	4.1%

図 1-10 は、運動・スポーツの実施仲間（年代別）を示しています。20 歳代では「自分一人で」が最も高く 57.6%（県調査：44.6%）です。以下順に、「友人と」45.5%（県調査：65.4%）、「家族と」と「職場の人や学校仲間と」24.2%（県調査：「家族と」20.8%、「職場の人や学校の仲間と」23.8%）となっています。30 歳代では「友人と」が最も高く 47.0%（県調査：41.8%）です。次いで「家族と」44.6%（県調査：48.5%）「自分一人で」36.1%（県調査：52.7%）となっています。40 歳代においては「家族と」が 35.2%（県調査：48.4%）と最も割合が高く、以下「自分一人で」33.3%（県調査：59.8%）「サークルやクラブの人と」27.8%（県調査：36.5%）となっています。50 歳では「自分一人で」が最も高く 54.2%（県調査：59.4%）となっています。以下順に「家族と」32.2%（県調査：35.5%）「友人と」30.5%（県調査：31.4%）となっています。60 歳代では「自分一人で」が 62.1%（県調査：67.3%）であり、次いで「友人と」34.5%（県調査：43.2%）「家族と」28.4%（県調査：32.0%）となっています。70 歳代においては「自分一人で」が 60.0%（県調査：64.5%）と最も割合が高く、以下「友人と」、「自分が住んでいる町内会の人と」、「サークルやクラブの人と」が 24.3%（県調査：「友人と」38.0%、「自分が住んでいる町内会の人と」20.7%、「サークルやクラブの人と」16.3%）となっています。

20 歳代と 50 歳代以上の住民は、「自分一人で」運動・スポーツを実施していることがうかがえます。30 歳代、40 歳代では、「家族と」運動・スポーツを実施している住民が多いことがわかります。

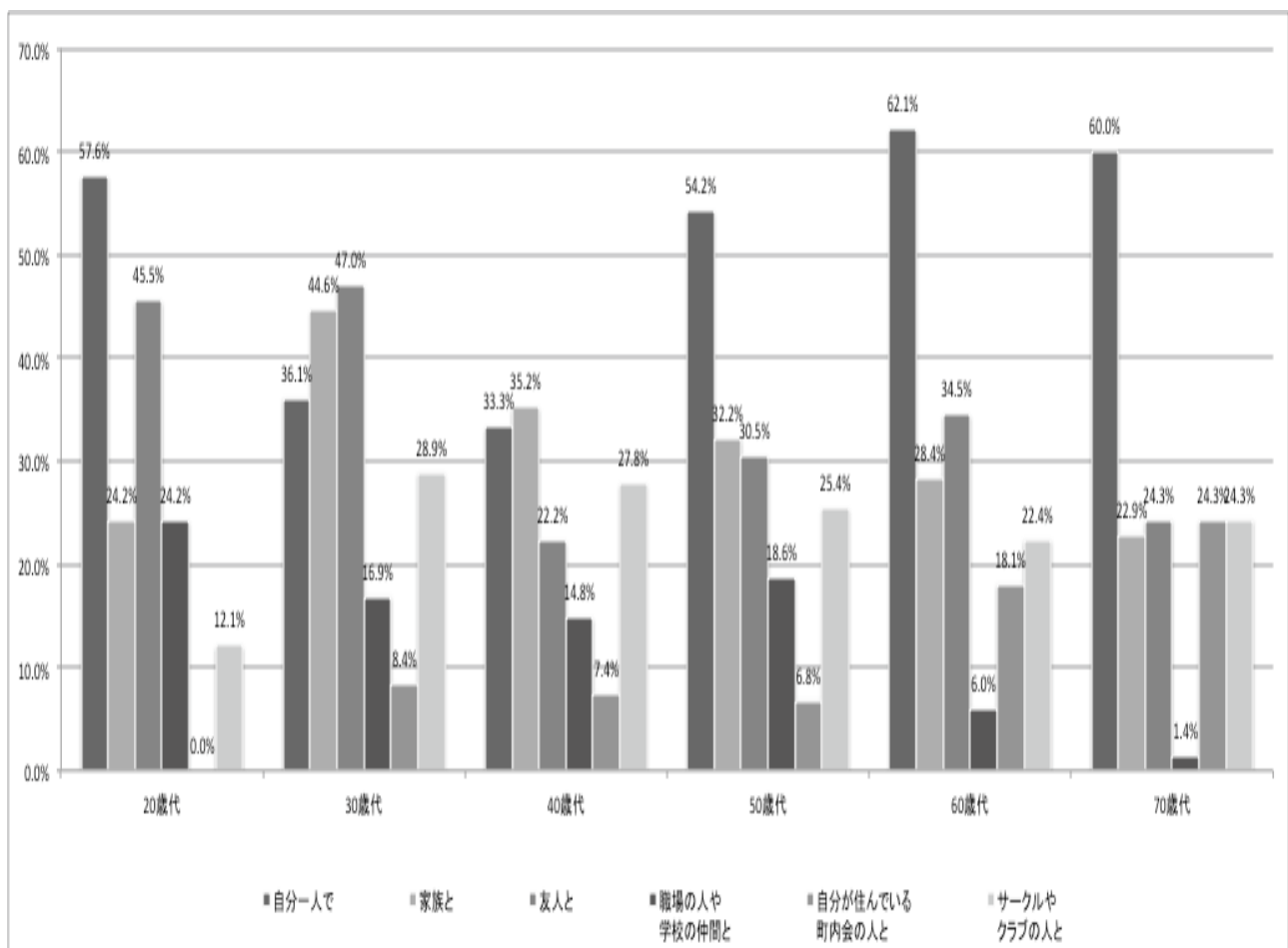


図 1-10 運動・スポーツの実施仲間（年代別）

(5) 運動・スポーツの実施種目

表1-2は、この1年間に実施した運動・スポーツ(上位10位)を示しています。全体では「散歩・ウォーキング」59.1%(全国調査:48.2%、県調査:65.2%)、「体操(ラジオ体操等)」17.8%(全国調査:26.2%、県調査:22.8%)、「ジョギング」16.2%(全国調査:12.1%、県調査:11.8%)、「バドミントン」12.4%(全国調査:10.4%、県調査:3.0%)、「サイクリング」11.7%(全国調査:7.2%、県調査:12.6%)と「ゴルフ(コース、練習場)」の順です。男性では「散歩・ウォーキング」57.7%、「ジョギング」と「ゴルフ(コース、練習場)」20.3%、「体操(ラジオ体操等)」16.5%、「サイクリング」と「釣り」12.6%となっています。女性では「散歩・ウォーキング」59.7%、「体操(ラジオ体操等)」と「バドミントン」19.4%、「バレーボール」13.6%、「ジョギング」13.1%、「サイクリング」11.2%の順となっています。

「散歩・ウォーキング」、「体操(ラジオ体操等)」、「ジョギング」、「サイクリング」は性別に関係なく実施されていることがうかがえます。男性では「ゴルフ(コース、練習場)」の割合が女性より高くなっています。女性では「バドミントン」、「バレーボール」の割合が男性よりも高くなっています。一人で気軽に、簡単にできるスポーツを楽しんでいます。

表1-2 この1年間に実施した運動・スポーツ(あてはまる種目を5つまで)

実施種目	全体(%)	男性(%)	女性(%)
散歩・ウォーキング	59.1%	57.7%	59.7%
体操(ラジオ体操等)	17.8%	16.5%	19.4%
ジョギング	16.2%	20.3%	13.1%
バドミントン	12.4%	4.4%	19.4%
サイクリング	11.7%	12.6%	11.2%
ゴルフ(コース、練習場)	11.7%	20.3%	3.4%
グラウンド・ゴルフ	9.9%	12.1%	8.3%
ボウリング	9.9%	11.0%	8.7%
水泳	9.6%	8.8%	10.7%
バレーボール	8.9%	3.8%	13.6%

(6) 今後行ってみたい運動・スポーツの種目

表1-3は、今後行ってみたい運動・スポーツ(上位10位)についてたずねた結果です。全体において、第1位は「散歩・ウォーキング」27.5%(全国調査:50.8%、県調査:27.2%)、第2位は「水泳」19.5%(全国調査:22.1%、県調査:29.9%)、第3位は「太極拳、ヨガ」16.3%(全国調査:項目なし、県調査:21.5%)、第4位は「水中歩行、水中運動」12.0%(全国調査、県調査:項目なし)、第5位は「サイクリング」11.2%(全国調査:7.8%、県調査:18.8%)であり、個人的な運動・スポーツ種目が多くなっています。

性別でみると、男女ともに第1位は「散歩・ウォーキング」です(男性28.7%、女性26.6%)。以下、男性の順位は、第2位「水泳」18.1%、第3位「ハイキング」14.8%、第4位「釣り」13.0%、第5位「サイクリング」12.5%となっています。女性の順位は第2位「太極拳、ヨガ」23.0%、第3位「水泳」20.9%、第4位「水中歩行、水中運動」16.9%、第5位「サイクリング」10.4%となっています。

上位にあげられた種目の特徴は、「個人種目」、「健康・体力の保持・増進種目」といえるでしょう。

表1-3 今後行ってみたい運動・スポーツ(あてはまる種目3つ)

行ってみたい運動・スポーツ種目	全体(%)	男性(%)	女性(%)
散歩・ウォーキング	27.5%	28.7%	26.6%
水泳	19.5%	18.1%	20.9%
太極拳、ヨガ	16.3%	7.4%	23.0%
水中歩行、水中運動	12.0%	6.0%	16.9%
サイクリング	11.2%	12.5%	10.4%
ハイキング	10.2%	14.8%	6.8%
ジョギング	8.6%	10.2%	7.6%
バドミントン	8.2%	7.4%	8.6%
登山	8.2%	7.9%	8.6%
釣り	8.0%	13.0%	4.3%

(7) 運動・スポーツクラブやチームへの加入状況

図 1-11 は、運動・スポーツクラブやチームへの加入状況を示しています。加入している住民は、約 3 割（全国調査：16.2%、県調査：20.8%）と高い値を示しています。

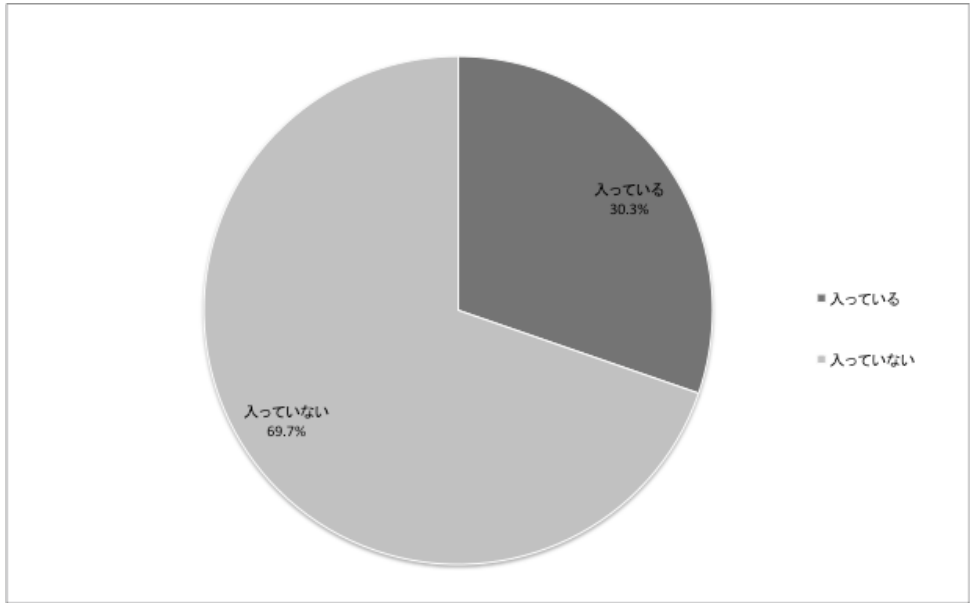


図 1-11 運動・スポーツクラブやチームへの加入状況

表 1-4 は、加入している運動・スポーツクラブやチームを示しています。男性で最も高い割合を示したのは、「スポーツクラブ 21 はりま」39.4%です。以下順に「スポーツクラブ 21 はりま以外の地域のクラブやチーム」29.2%、「その他」20.5%、「職場のクラブやチーム」15.3%、「民間のスポーツクラブやフィットネスクラブ」15.3%となっています。女性で最も高い割合を示したのは、「スポーツクラブ 21 はりま」54.1%です。以下順に「スポーツクラブ 21 はりま以外の地域のクラブやチーム」18.4%、「その他」16.3%、「民間のスポーツクラブやフィットネスクラブ」13.3%です。

男性、女性ともにスポーツクラブ 21 はりまに加入している割合が高く、特に女性は約半数がスポーツクラブ 21 はりまに加入していることがわかります。

表 1-4 加入している運動・スポーツクラブやチーム（複数回答）

運動・スポーツクラブやチーム	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
スポーツクラブ 21 はりま	48.2%	39.4%	54.1%
スポーツクラブ 21 はりま以外の地域のクラブやチーム	23.4%	29.2%	18.4%
職場のクラブやチーム	7.6%	15.3%	2.0%
民間のスポーツクラブやフィットネスクラブ	14.0%	15.3%	13.3%
学校のクラブやチーム	2.9%	1.4%	4.1%
その他	18.0%	20.5%	16.3%

図 1-12 は、運動・スポーツクラブやチームに加入していない理由（性別）をたずねた結果です。最も高い割合を示したのは「時間・休みがない」で、全体で 29.8%、男性で 29.4%、女性で 30.0%です。以下、全体では「その他」11.0%、「手頃な教室やプログラムがない」10.8%、「一緒に入る仲間がない」10.5%、「経済的ゆとりがない」9.6%となっています。男性では「一緒に入る仲間がない」13.8%、「その他」11.9%、「経済的ゆとりがない」11.3%、「行きたいスポーツのクラブやチームがない」9.4%の順です。女性では「手頃な教室やプログラムがない」12.6%、「家事が忙しい」10.0%、「経済的ゆとりがない」8.4%となっています。

男性は、「時間」や「一緒に入る仲間がない」を運動・スポーツクラブやチームに加入していない理由としてあげ、女性は、「家事」や「経済的ゆとり」が運動・スポーツクラブやチームに加入していない理由です。

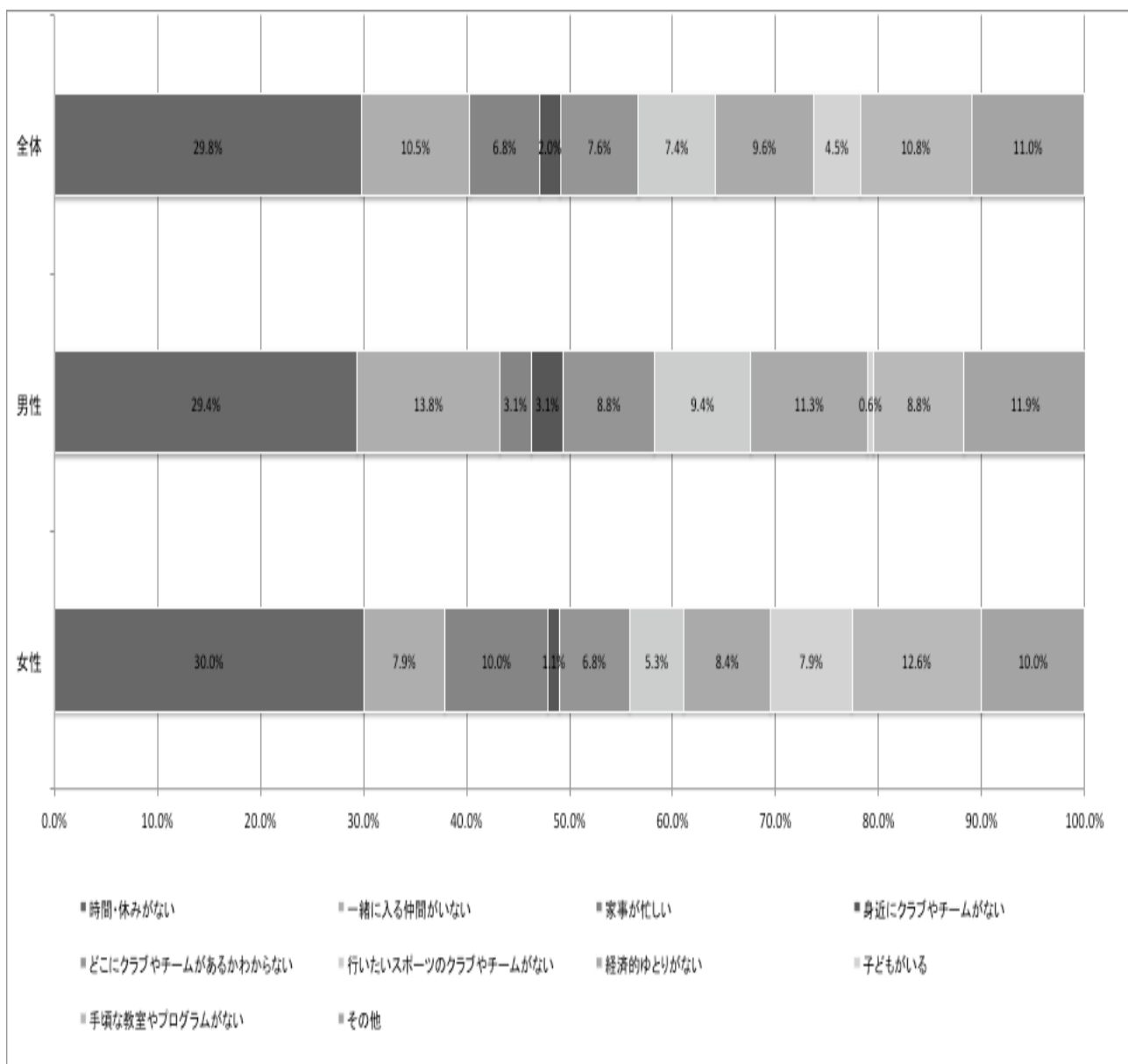


図 1-12 運動・スポーツクラブやチームに未加入の理由（性別）

図 1-13 は、運動・スポーツクラブやチームに加入していない理由（年代別）をたずねた結果を示しています。20 歳代から 50 歳代までで最も高い割合を示したのは「時間・休みがない」（20 歳代 40.5%、30 歳代 37.7%、40 歳代 49.2%、50 歳代 32.7%）となっています。20 歳代の第 2 位以下は「どこにクラブやチームがあるかわからない」が 11.9%、「一緒に入る仲間がいない」と「行いたいスポーツのクラブやチームがない」とが 9.5%となっています。30 歳代では「子どもがいる」が 14.8%、「一緒に入る仲間がいない」と「家事が忙しい」と「行いたいスポーツのクラブやチームがない」とが 8.2%となっています。40 歳代においては「経済的ゆとりがない」が 11.9%、「手頃な教室やプログラムがない」が 10.2%となっています。50 歳代では「手頃な教室やプログラムがない」13.5%、「家事が忙しい」、「経済的ゆとりがない」、「その他」11.5%の順となっています。60 歳代では「手頃な教室やプログラムがない」が最も高く 20.7%です。以下「一緒に入る仲間がいない」18.3%、「時間・休みがない」17.1%の順です。70 歳代では「その他」30.8%、「経済的ゆとりがない」13.5%、「一緒に入る仲間がいない」11.5%となっています。

運動・スポーツクラブやチームに加入していない理由は、「時間・休みがない」、「一緒に入る仲間がいない」、「教室やプログラムがない」とまとめられます。

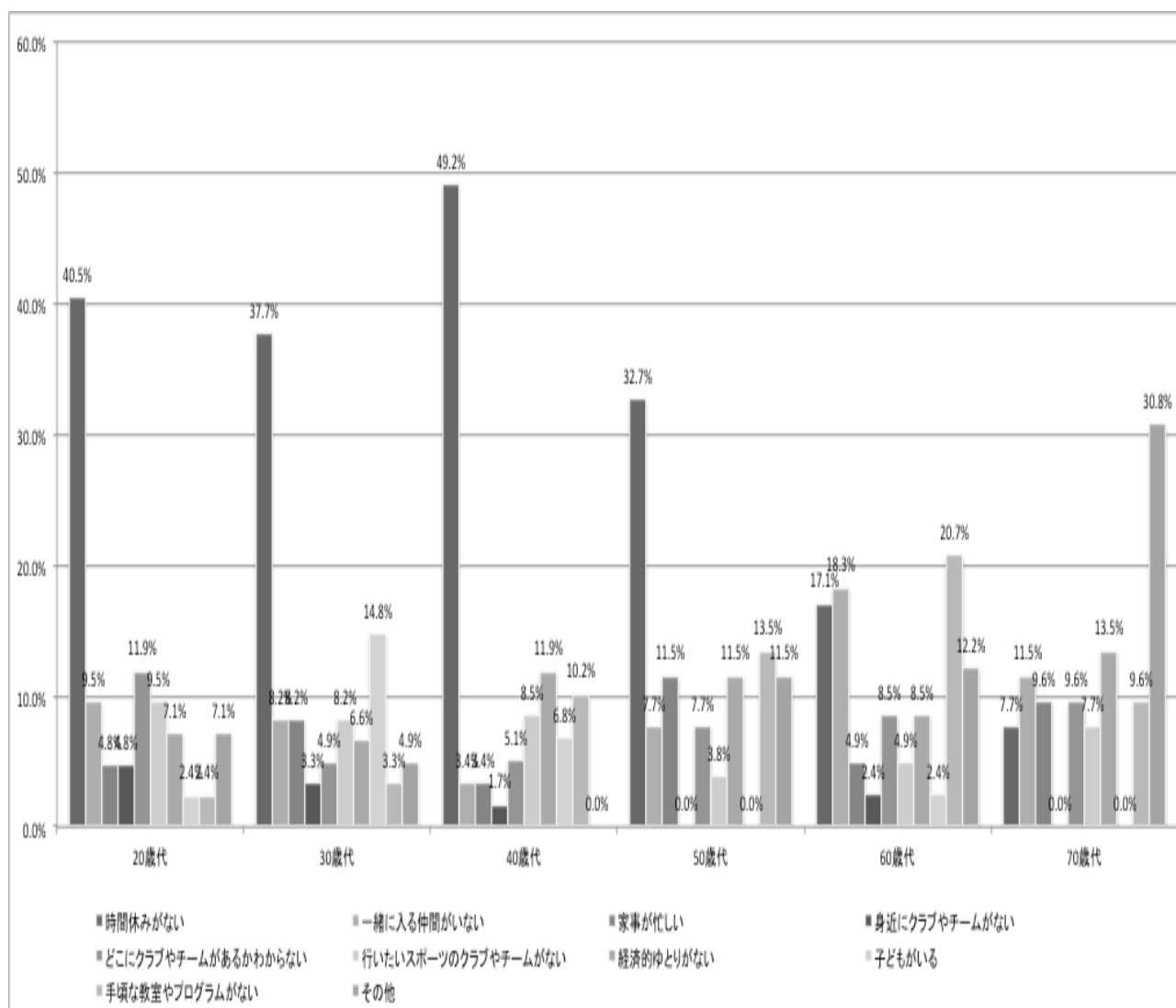


図 1-13 運動・スポーツクラブやチームに未加入の理由（年代別）

(8) スポーツ行事への参加状況

表 1-5 は、過去 1 年間に町や地域スポーツクラブなどが開催するスポーツ行事に参加したかをたずねた結果です。全体、性別とも最も高い割合を示したのは「参加していない」(全体 71.0%、男性 73.0%、女性 70.0%) です。以下、全体では、「運動会」9.8%、「各種競技大会」8.7%、「レクリエーション・イベント」5.7%、「健康づくり行事」5.5%と続いています。男性では、「各種競技大会」10.0%、「運動会」8.7%、「レクリエーション・イベント」5.4%、「健康づくり行事」5.0%の順となっています。女性では、「運動会」10.9%、「各種競技大会」7.3%、「運動・スポーツ教室」6.3%、「レクリエーション・イベント」「健康づくり行事」5.6%となっています。

男女共に、「運動会」、「各種競技大会」といった地域のスポーツ行事に参加したことがうかがえます。

表 1-5 スポーツ行事への参加

過去 1 年間に参加したスポーツ行事	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
参加していない	71.0%	73.0%	70.0%
運動会	9.8%	8.7%	10.9%
各種競技大会	8.7%	10.0%	7.3%
レクリエーション・イベント	5.7%	5.4%	5.6%
健康づくり行事	5.5%	5.0%	5.6%
運動・スポーツ教室	5.3%	4.1%	6.3%
体力テスト	2.9%	0.8%	4.3%
野外活動(キャンプ、ハイキング等)	0.7%	1.2%	0.3%
その他	0.4%	0.8%	0.0%

(9) 運動・スポーツの阻害要因

表1-6は、運動・スポーツの阻害要因を示しています。全体で最も多い阻害要因は、「時間がない」28.9%（全国調査：45.9%、県調査：21.7%）です。次いで「健康上の理由から」14.8%（全国調査：24.0%、県調査：9.8%）、「何から始めたらいいかわからない」7.8%、「スポーツが苦手」7.0%（全国調査：11.2%、県調査：12.8%）、「スポーツに興味がない」と「スポーツをするのが面倒である」6.3%（県調査：10.4%）となっています。

性別では、男性の第1位は「時間がない」と「健康上の理由から」が21.3%、第2位は「何から始めたらいいかわからない」12.8%、第3位は「スポーツに興味がない」と「一緒にやる仲間がいない」10.6%となっています。女性の第1位は「時間がない」32.9%、第2位は「スポーツが苦手」と「健康上の理由から」が10.1%です。

運動・スポーツの阻害要因は、「時間要因」、「健康要因」、「態度要因」であることがうかがえます。

表1-6 運動・スポーツの阻害要因

運動・スポーツを行わなかった理由	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
時間がない	28.9%	21.3%	32.9%
健康上の理由から	14.8%	21.3%	10.1%
何から始めたらいいかわからない	7.8%	12.8%	5.1%
スポーツが苦手	7.0%	5.1%	10.1%
スポーツに興味がない	6.3%	10.6%	3.8%
スポーツをするのが面倒である	6.3%	6.4%	6.3%
家事が忙しい	4.7%	2.1%	6.3%
子どもがいる	4.7%	0.0%	7.6%
その他	4.7%	4.3%	5.1%
一緒にやる仲間がいない	3.9%	10.6%	0.0%
スポーツをすると疲れる	3.9%	2.1%	5.1%
周りにスポーツを行える施設や場所がない	3.1%	2.1%	3.8%
手頃な教室がない	2.3%	0.0%	3.8%
経済的ゆとりがない	1.6%	4.3%	0.0%

2. “みるスポーツ”の現状と課題

播磨町スポーツ推進計画では、“みるスポーツ”の“みる”を「観る（観戦する）」、「見る（スポーツをする人を見守る）」、「診る（健康・体力の状態を知る）」の3つの視点でとらえます。

3つの“みる”に必要な情報や施設、機会等についての現状と課題は次のとおりです。

(1) 運動・スポーツの情報源

住民は、どのようにして運動・スポーツに関する情報を得ているのでしょうか。表2-1は、播磨町民の運動・スポーツの情報源を示しています。全体をみると、第1位「知人や友人」38.7%（県調査：30.1%）、第2位「町の広報」38.4%（県調査：45.8%）、第3位「新聞や雑誌」25.0%（県調査：32.3%）、第4位「インターネット」18.8%（県調査：18.2%）、第5位「テレビやラジオ」18.3%（県調査：14.0%）の順となっています。

性別において、男性では第1位「知人や友人」32.9%（県調査：25.5%）、第2位「町の広報」30.9%（県調査：37.1%）、第3位「新聞や雑誌」25.7%（県調査：36.3%）、第4位「インターネット」24.1%（県調査：25.3%）、第5位「テレビやラジオ」20.9%（県調査：13.7%）となっています。女性では第1位「町の広報」44.1%（県調査：53.1%）、第2位「知人や友人」43.6%（県調査：34.7%）、第3位「新聞や雑誌」24.7%（県調査：29.4%）、第4位「テレビやラジオ」16.7%（県調査：14.5%）、第5位「スポーツクラブ21 はりま会報」15.4%（県調査：6.2%）の順です。

住民は運動・スポーツの情報を「口コミ」、「メディア」、「スポーツクラブ21 はりま会報」から得ていることがうかがえます。

表2-1 運動・スポーツの情報源（複数回答）

運動・スポーツの情報源	全体(%)	男性(%)	女性(%)
知人や友人	38.7%	32.9%	43.6%
町の広報	38.4%	30.9%	44.1%
新聞や雑誌	25.0%	25.7%	24.7%
インターネット	18.8%	24.1%	14.4%
テレビやラジオ	18.3%	20.9%	16.7%
職場の同僚や仲間	14.6%	18.1%	12.2%
スポーツクラブ21 はりま会報	14.3%	12.9%	15.4%
回覧板	14.1%	12.9%	15.1%
公共施設の掲示板	9.5%	7.6%	11.2%
その他	5.1%	6.4%	3.8%

(2) 運動・スポーツの情報ニーズ

表2-2は、運動・スポーツの情報ニーズを示しています。全体では、第1位が「健康・体力づくり情報」41.3%（県調査：48.2%）、第2位が「スポーツ教室・プログラムの案内」39.1%（県調査：31.7%）、第3位が「スポーツ施設の案内」38.3%（県調査：37.7%）の順です。

性別において、男性では「スポーツ施設の案内」が41.8%（県調査：39.4%）で最も高く、以下「健康・体力づくり情報」41.4%（県調査：45.5%）、「スポーツ教室・プログラムの案内」32.4%（県調査：27.7%）となっています。女性では「スポーツ教室・プログラムの案内」が44.2%（県調査：35.9%）で最も高く、以下「健康・体力づくり情報」41.0%（県調査：51.0%）、「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツの情報」40.1%（県調査：50.5%）の順です。

「健康・体力づくり情報」、「スポーツ教室・プログラムの案内」、「新しいスポーツ、気軽にできるスポーツの情報」といった身近で気軽にできるスポーツについての情報に対する要望が多いことがわかります。

表2-2 運動・スポーツの情報ニーズ（複数回答）

情報ニーズ	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
健康・体力づくり情報	41.3%	41.4%	41.0%
スポーツ教室・プログラムの案内	39.1%	32.4%	44.2%
スポーツ施設の案内	38.3%	41.8%	35.9%
新しいスポーツ、気軽にできるスポーツの情報	35.8%	29.5%	40.1%
スポーツ大会・イベント情報	21.4%	28.8%	15.4%
スポーツの医科学情報	14.6%	13.9%	15.4%
スポーツクラブ21 はりまの活動・入会案内	11.6%	13.5%	9.6%
各種スポーツ指導者の紹介	9.1%	9.8%	8.3%
その他	2.3%	2.5%	2.2%

(3) 運動・スポーツ施設への要望

表2-3は、運動・スポーツ施設に対する要望を示しています。全体において、最も高い割合を示したのは、「公共のスポーツ施設の充実」56.4%（県調査：36.0%）です。以下「自然と触れ合うことのできる施設の整備」42.7%（県調査：34.1%）、「スポーツ活動と文化活動の両方が行える施設の充実」23.1%（県調査：19.8%）、「交流スペース（飲食可）の整備」23.0%、「温水シャワーの整備」15.9%、「民間企業のスポーツ施設の開放」15.7%（県調査：10.5%）となっています。

性別において、男性では「公共のスポーツ施設の充実」50.4%（県調査：35.8%）、「自然と触れ合うことのできる施設の整備」48.7%（県調査：40.3%）、「スポーツ活動と文化活動の両方が行える施設の充実」22.6%（県調査：18.5%）となっています。女性では、「公共のスポーツ施設の充実」60.6%（県調査：36.0%）、「自然と触れ合うことのできる施設の整備」38.0%（県調査：27.9%）、「交流スペース（飲食可）の整備」25.0%、の順です。

スポーツ活動と文化活動の両方が行え、交流スペース等が整備された運動・スポーツ施設への要望が多いといえます。

表2-3 運動・スポーツ施設への要望（複数回答）

運動・スポーツ施設に対する要望	全体（%）	男性（%）	女性（%）
公共のスポーツ施設の充実	56.4%	50.4%	60.6%
自然と触れ合うことのできる施設の整備	42.7%	48.7%	38.0%
スポーツ活動と文化活動の両方が行える施設の充実	23.1%	22.6%	23.3%
交流スペース（飲食可）の整備	23.0%	20.9%	25.0%
温水シャワーの整備	15.9%	19.6%	13.4%
民間企業のスポーツ施設の開放	15.7%	13.5%	17.8%
空き地の開放	13.1%	13.9%	12.3%
芝生（天然・人口）のグラウンド等の整備	12.9%	20.0%	7.5%
託児所の整備	8.2%	4.3%	11.3%
その他	4.0%	4.3%	3.8%

(4) 公共の運動・スポーツ施設への要望

表2-4は、公共の運動・スポーツ施設への要望を示しています。全体をみると、第1位は「利用料金を安くして欲しい」51.5%（県調査：54.6%）、第2位は「施設利用手続きの簡素化」35.2%（全国調査：22.8%、県調査：37.9%）、第3位は「予約なしで参加できるプログラムの充実」34.5%（県調査：53.3%）、第4位は「高齢者向けプログラムの充実」21.1%（県調査：35.0%）、第5位は「利用時間（早朝、夜間）の延長」18.6%（全国調査：23.5%、県調査：24.0%）となっています。

性別でみると、男性における第1位は「利用料金を安くして欲しい」46.7%（県調査：52.8%）、第2位は「施設利用手続きの簡素化」38.9%（県調査：40.0%）、第3位は「予約なしで参加できるプログラムの充実」33.6%（県調査：51.2%）となっています。女性における第1位は「利用料金を安くして欲しい」55.9%（県調査：57.6%）、第2位は「予約なしで参加できるプログラムの充実」35.1%（県調査：55.4%）、第3位は「施設利用手続きの簡素化」32.6%（県調査：35.8%）の順です。

男女共に、料金や利用時間、利用手続き、プログラムに対する要望が多いといえます。

表2-4 公共の運動・スポーツ施設への要望（複数回答）

公共施設に対する要望	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
利用料金を安くして欲しい	51.5%	46.7%	55.9%
施設の利用手続きの簡素化	35.2%	38.9%	32.6%
予約なしで参加できるプログラムの充実	34.5%	33.6%	35.1%
高齢者向けプログラムの充実	21.1%	24.5%	18.4%
利用時間（早朝、夜間）の延長	18.6%	19.2%	18.4%
体力・健康相談プログラムの充実	14.2%	14.8%	13.5%
駐車場の拡張	12.8%	13.5%	12.5%
専任スタッフや指導者の配置	8.8%	7.9%	9.0%
家族で参加できるプログラムの充実	8.4%	9.2%	7.3%
親子で参加できるプログラムの充実	8.2%	7.4%	9.0%
交流スペース（飲食可）の整備	8.0%	7.0%	9.0%
温水シャワーの整備	7.7%	10.5%	5.6%
託児所の整備	4.4%	3.1%	5.6%
子ども向けプログラムの充実	4.0%	2.2%	5.6%
障がい者向けプログラムの充実	3.6%	2.6%	4.5%
その他	1.7%	2.6%	1.0%

(5) 播磨町のスポーツ関連イベントやクラブチーム

本町ではさまざまなスポーツ関連イベントが開催されています。

まず、「播磨町ロードレース大会」は、播磨町総合体育館をスタート・フィニッシュとし、新島内を周るコース設定がされた一大イベントです。1.5Km、2Km、3Km、5Km、10Kmといったきめ細かい種目が用意されており、子どもから高齢者まで気軽に参加できる大会です。それぞれのランナーが自らの走力を試す場であるのはもちろんですが、招待選手のすばらしい走りを観戦できる機会にもなっています。

次に、「播磨町健康福祉フェア」は、幼児から高齢者、障がいのある方まで、「健康」をキーワードにしながら誰もが気軽に楽しめるイベントです。ステージや広場ではさまざまなスポーツが紹介され、健康診断・相談コーナーでは専門家による健康アドバイスを受けることができます。そして、福祉コーナーでは、車椅子等の体験もできます。こうしたイベントは、住民の健康に対する関心やスポーツ実施への意欲を高めるきっかけとなっています。

また、本町には小学部・中学部・社会人といった多世代のメンバーから構成される硬式野球チームや、スポーツクラブ21 はりまが開催する「子どもいきいきスポーツ教室」があります。地域の方々に見守られながら、子どもたち、住民がのびのびとスポーツに親しめる機会が数多くあります。

3.“ささえるスポーツ”の現状と課題

誰もがスポーツを楽しめる環境を整えるためには、支え合いのできる住民パワーが大切です。播磨町の住民は、スポーツを支えるという観点から、スポーツにどのようなかわりをしているのでしょうか。播磨町における“ささえるスポーツ”の現状と課題は次のとおりです。

(1) スポーツボランティアの参加状況

図3-1は、スポーツボランティアの実施状況を示しています。全体では、「行った」と回答した割合は7.0%(県調査:8.4%)となっており、県調査より約1ポイント低くなっています。

性別でみると、「行った」と回答した男性の割合は11.7%(県調査:10.7%)で、女性2.9%(県調査:5.8%)よりも約9ポイント高くなっています。女性より男性のスポーツボランティアが多いことがわかります。

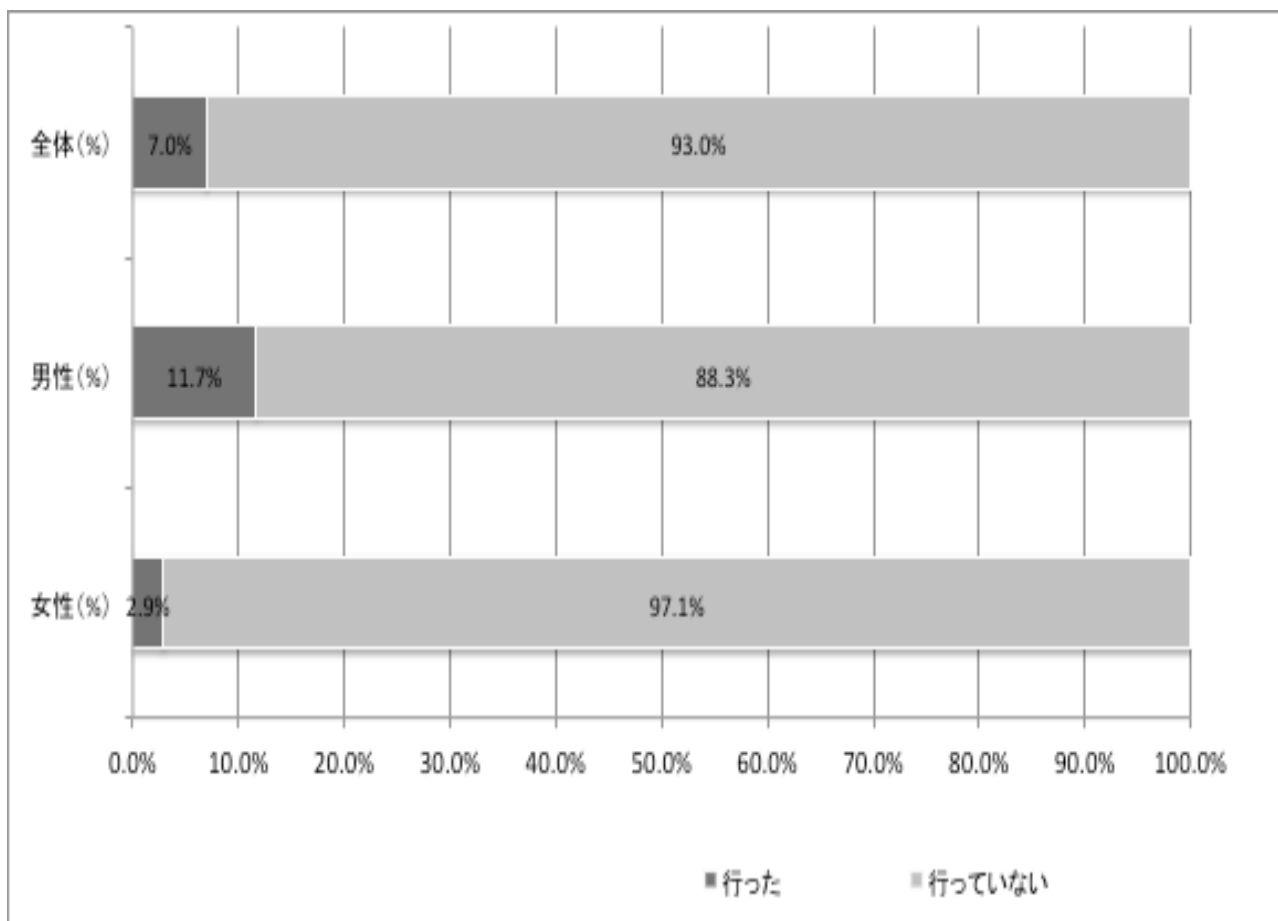


図3-1 スポーツボランティアの参加状況

(2) スポーツボランティアの活動内容

播磨町の住民は、スポーツボランティアとしてどのような活動に参加しているのでしょうか。表3-1は、スポーツボランティアを「行った」と回答した人に、その活動内容をたずねた結果です。全体をみると、最も高い割合を示したのは「地域のスポーツイベント（大会・イベントの運営や世話）」の53.8%（県調査：47.5%）となっています。以下「日常的な活動（団体・クラブの運営や世話）」35.9%（県調査：46.7%）、「日常的な活動（スポーツの指導）」30.8%（県調査：34.2%）、「日常的な活動（スポーツの審判）」15.4%（県調査：20.8%）の順です。

性別において、男性では第1位が「地域のスポーツイベント（大会・イベントの運営や世話）」51.7%（県調査：46.3%）、第2位が「日常的な活動（団体・クラブの運営や世話）」34.5%（県調査：43.3%）、第3位が「日常的な活動（スポーツの指導）」31.0%（県調査：40.3%）の順となっています。女性では、第1位が「地域のスポーツイベント（大会・イベントの運営や世話）」55.6%（県調査：52.4%）、第2位が「日常的な活動（団体・クラブの運営や世話）」33.3%（県調査54.8%）、第3位が「日常的な活動（スポーツの指導）」22.2%（県調査：21.4%）の順です。

スポーツボランティアとして、地域のスポーツイベントの運営や世話、団体・クラブの運営や世話、スポーツの指導といった日常的な活動を行っていることがうかがえます。

表3-1 スポーツボランティアの活動内容（複数回答）

スポーツボランティアの活動内容	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
地域のスポーツイベント （大会・イベントの運営や世話）	53.8%	51.7%	55.6%
日常的な活動 （団体・クラブの運営や世話）	35.9%	34.5%	33.3%
日常的な活動 （スポーツの指導）	30.8%	31.0%	22.2%
日常的な活動 （スポーツの審判）	15.4%	13.8%	11.1%
地域のスポーツイベント （スポーツの審判）	15.4%	17.2%	11.1%
全国・国際的イベント （大会・イベントの運営や世話）	12.8%	13.8%	11.1%
全国・国際的イベント （スポーツの審判）	5.1%	6.9%	0.0%
日常的な活動 （スポーツ施設の管理の手伝い）	2.6%	3.4%	0.0%

(3) スポーツボランティアへの参加意志

図3-2は、スポーツボランティアを「行っていない」と回答した人に、今後の参加意志をたずねた結果を示しています。「行いたい」という意志（「ぜひ行いたい」、「できれば行いたい」）を有している人の割合は、全体では22.9%（県調査：15.3%）、男性では22.3%（県調査：17.6%）、女性では22.7%（県調査：12%）となっています。いずれも県調査の数値を上回っています。しかし、約4割の人が「わからない」と回答しており、スポーツボランティアの活動内容や活動時期などの情報提供が求められます。

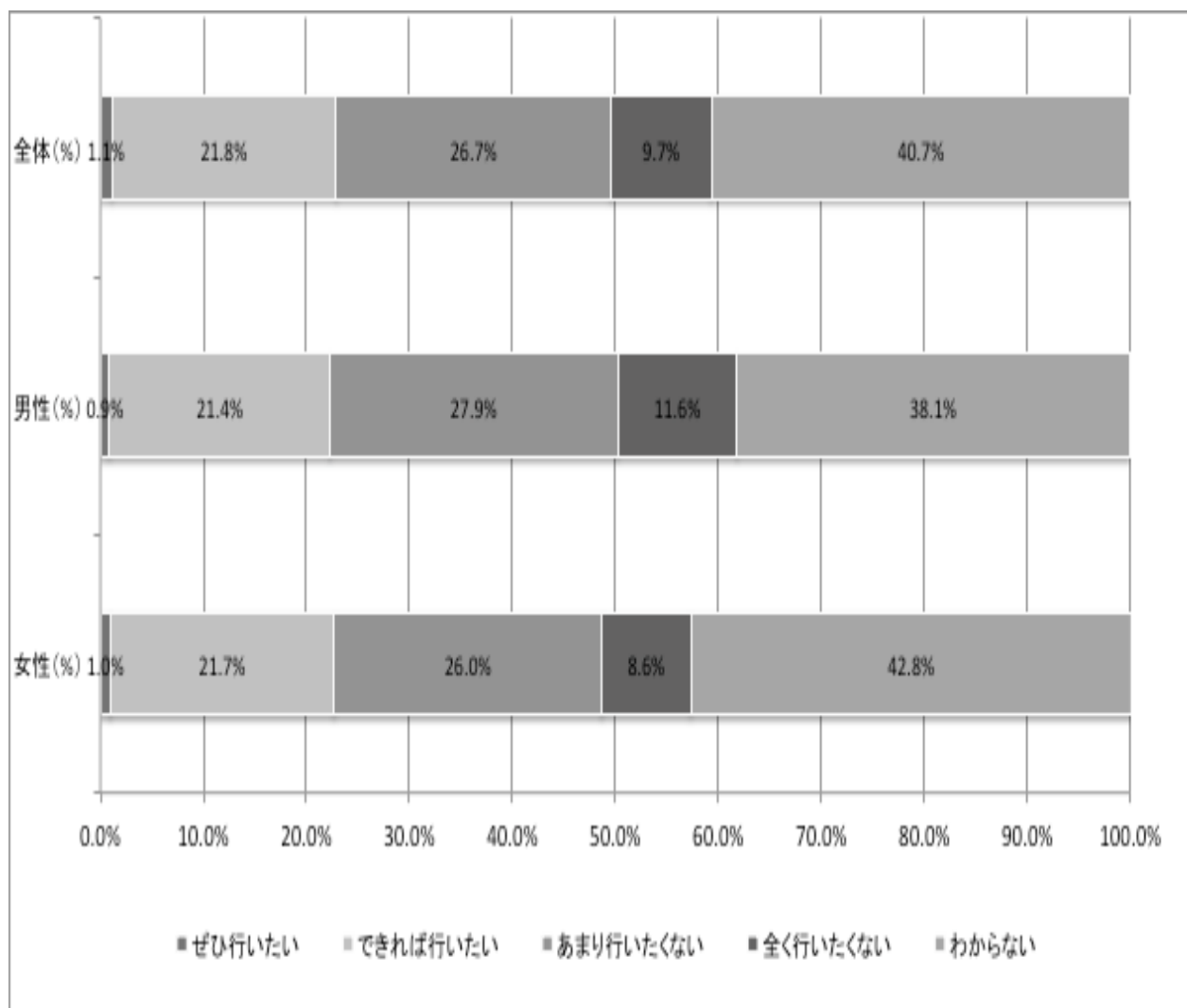


図3-2 スポーツボランティアへの参加意志

(4) 障がい者スポーツへのかかわり

表3-2は、障がい者スポーツへのかかわりについてたずねた結果です。全体としては「テレビやラジオ、新聞などで、間接的に見たり聞いたりしたことがある」が50.7%（県調査：88.0%）で最も高く、次に「関わっていない」が49.5%（県調査：項目なし）となっています。

性別において、男性では「関わっていない」が52.5%で最も高く、次いで「テレビやラジオ、新聞などで、間接的に見たり聞いたりしたことがある」の50.0%（県調査87.7%）となっています。女性では「テレビやラジオ、新聞などで、間接的に見たり聞いたりしたことがある」が50.8%（県調査：88.2%）で最も高く、次いで「関わっていない」の47.5%の順です。障がい者スポーツに積極的に関わっている人はそれほど多くないことが推察されます。

今後、障がい者スポーツに関する更なる情報発信が求められます。

表3-2 障がい者スポーツへのかかわり（複数回答）

障がい者スポーツへの関わり	全体（%）	男性（%）	女性（%）
テレビやラジオ、新聞などで、間接的に見たり聞いたりしたことがある	50.7%	50.0%	50.8%
関わっていない	49.5%	52.5%	47.5%
直接観戦したり、または参加したりしたことがある	6.0%	6.2%	5.9%
指導や介助、スポーツ大会スタッフなどに関わっている	1.6%	2.1%	1.3%

(5) 障がい者スポーツの普及・振興に対する要望

表3-3は、障がい者スポーツの普及・振興に対する要望を示しています。全体をみると、「スポーツ施設のバリアフリー化(スロープや障がい者用トイレの設置等)の推進」が63.7%(県調査:62.7%)で最も高く、次いで「障がい者の運動・スポーツ施設の整備・充実」38.2%(県調査:23.5%)、「障がい者スポーツに関する情報の収集・発信」29.9%(県調査:15.8%)、「指導者の養成」29.7%(県調査:22.3%)の順です。男性では、「スポーツ施設のバリアフリー化(スロープや障がい者用トイレの設置等)の推進」が62.6%(県調査:59.1%)で第1位、第2位は「障がい者の運動・スポーツ施設の整備・充実」41.4%(県調査:26.4%)、第3位は「指導者の養成」30.0%(県調査:23.6%)となっています。女性では、「スポーツ施設のバリアフリー化(スロープや障がい者用トイレの設置等)の推進」が64.6%(県調査:66.4%)で第1位、第2位は「障がい者の運動・スポーツ施設の整備・充実」36.1%(県調査:ランク外)、第3位は「障がい者スポーツに関する情報の収集・発信」31.6%(県調査:ランク外)の順です。

障がい者スポーツの普及・振興に対しては、施設面の整備や充実、情報発信、指導者などの人材の養成を求めていることがうかがえます。

表3-3 障がい者スポーツの普及・振興に対する要望(複数回答)

障がい者スポーツの普及・振興に対して望むこと	全体(%)	男性(%)	女性(%)
スポーツ施設のバリアフリー化(スロープや障がい者用トイレの設置等)の推進	63.7%	62.6%	64.6%
障がい者の運動・スポーツ施設の整備・充実	38.2%	41.4%	36.1%
障がい者スポーツに関する情報の収集・発信	29.9%	28.6%	31.6%
指導者の養成	29.7%	30.0%	29.3%
公共スポーツ施設の障がい者用スポーツ用具の整備	23.8%	26.1%	21.7%
スポーツ教室・大会の開催	14.9%	14.3%	15.6%
クラブやチームの育成	13.8%	14.3%	13.3%
その他	1.1%	1.0%	1.1%

(6) 運動・スポーツに影響を及ぼす重要な他者

図3-3は、運動・スポーツに影響を及ぼす重要な他者(周囲の人)についてたずねた結果です。「適切な指導者の存在」について、約4割の人が「いる」(「あてはまる」18.6%、「少しあてはまる」18.6%)と回答しています。「家族の支援」について、「あてはまる」と回答した割合は29.5%、「少しあてはまる」と回答した割合は30.3%と、約6割の人が家族の支援があると回答しています。「友人の支援」について、「あてはまる」と回答した割合は16.2%、「少しあてはまる」と回答した割合は25.5%となっています。「誘ってくれる仲間の存在」について、「あてはまる」と回答した割合は27.3%、「少しあてはまる」と回答した割合は26.5%と、約半数の人が誘ってくれる仲間がいると回答しています。

以上のことから、運動・スポーツを実施する際の重要な他者(周囲の人)は、「家族」と「仲間」であることがわかります。

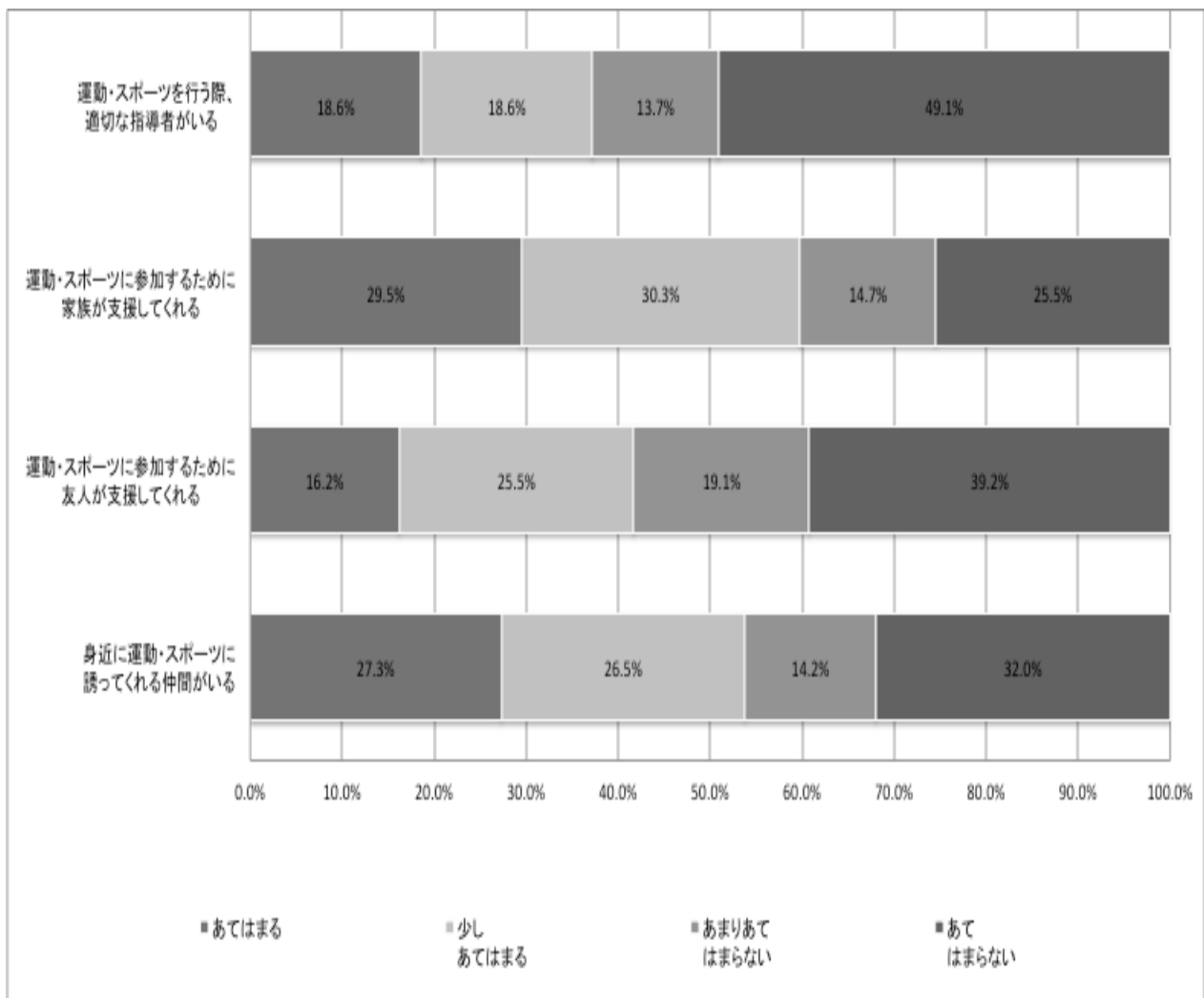


図3-3 運動・スポーツに影響を及ぼす重要な他者

図3-4は、運動・スポーツに影響を及ぼす重要な他者（周囲の人）についてたずねた結果（性別）を示しています。「適切な指導者の存在」について、「あてはまる」と回答した割合は、男性13.7%、女性22.7%、「少しあてはまる」と回答した割合は、男性17.9%、女性で19.2%である。男性より女性の方が「適切な指導者の存在」について約10ポイント高く、女性が運動・スポーツを実施する際に指導者がいることがうかがえます。

「家族の支援」について、「あてはまる」と回答した割合は、男性30.3%、女性28.4%、「少しあてはまる」と回答した割合は、男性25.2%、女性34.5%となっています。「家族の支援」については、男性より女性の方が約5ポイント高くなっています。

「友人の支援」について、「あてはまる」と回答した割合は、男性13.4%、女性17.8%、「少しあてはまる」と回答した割合は、男性22.4%、女性28.4%となっています。「友人の支援」について、男性より女性の方が約10ポイント高く、女性の方が「友人の支援」を受けて運動・スポーツを実施していることがうかがえます。

「誘ってくれる仲間の存在」について、「あてはまる」と回答したのは、男性25.2%、女性28.2%であり、「少しあてはまる」と回答したのは、男性23.9%、女性28.6%となっている。「誘ってくれる仲間の存在」について、男性より女性の方が約10ポイント高く、女性の運動・スポーツ実施には「誘ってくれる仲間の存在」が大きいといえるでしょう。

以上「重要な他者（周囲の人）」について、すべての項目において男性よりも女性の方が高い割合を示しており、女性の方が運動・スポーツの実施を促してくれる人が周囲に存在しているといえるでしょう。

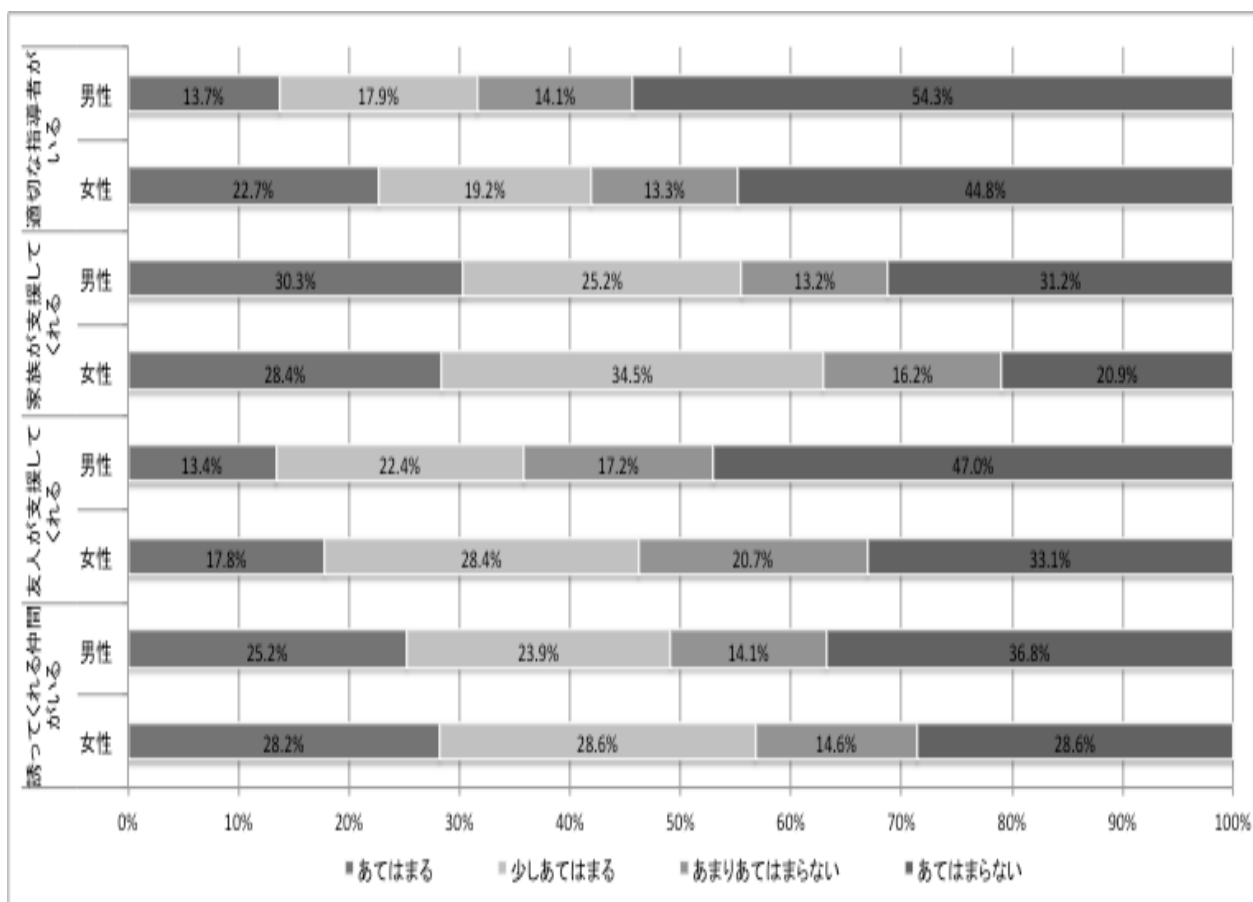


図3-4 運動・スポーツに影響を及ぼす重要な他者（性別）

4 . 播磨町への愛着度

住民は、播磨町にどの程度、愛着を持っているでしょうか。さらに、愛着度と運動・スポーツの関連についても検証していきます。

(1) 住民の播磨町への愛着度

図 4-1 は、町への愛着度を示しています。播磨町への愛着について、6 割を超える住民が「播磨町は私にとって大事である」と感じており、次いで「播磨町にとっても愛着がある」、「他の地域よりも播磨町に満足している」の順です。すなわち、6 割以上の住民が「播磨町は私にとって大事であり、とても愛着がある」ととらえています。

「播磨町にとっても愛着がある」(「非常にそう思う」、「そう思う」)と回答した人の割合は 64.0%と、約 6 割の住民が播磨町に愛着があると回答しています。「播磨町は、私にとって大事である」との質問に対して、「非常にそう思う」、「そう思う」と回答した人の割合は 65.8%と、6 割強の住民が播磨町は自分にとって大事であると考えています。

「播磨町に強い思い入れがある」との質問に対しては、「非常にそう思う」、「そう思う」と回答した人の割合は 37.6%と、約 4 割の住民が播磨町に対して強い思い入れをもっていることがわかります。「播磨町と私には強い結びつきがある」との質問に対して、「非常にそう思う」、「そう思う」と回答した人の割合は 40.8%であり、約 4 割の住民が播磨町に強い結びつきがあると感じています。

「他の地域よりも播磨町は楽しい」との質問に対しては、46.8%の住民が「楽しい」(「非常にそう思う」8.4%、「そう思う」38.4%)と回答しています。住民の約半数が播磨町は楽しいと感じているといえるでしょう。「他の地域よりも播磨町に満足している」との質問に対して、「非常にそう思う」、「そう思う」と回答した人の割合は 56.1%です。約半数の住民が播磨町に満足していることがうかがえます。

「他の地域よりも播磨町が重要である」との質問に対しては、50.4%が「重要」(「非常にそう思う」11.9%、「そう思う」38.5%)であると考えており、約半数の住民が播磨町が重要だと考えています。「播磨町以外の地域に住みたいとは思わない」との質問に対し、「非常にそう思う」12.0%、「そう思う」28.5%と約 6 割の住民が「住みたい」と考えています。

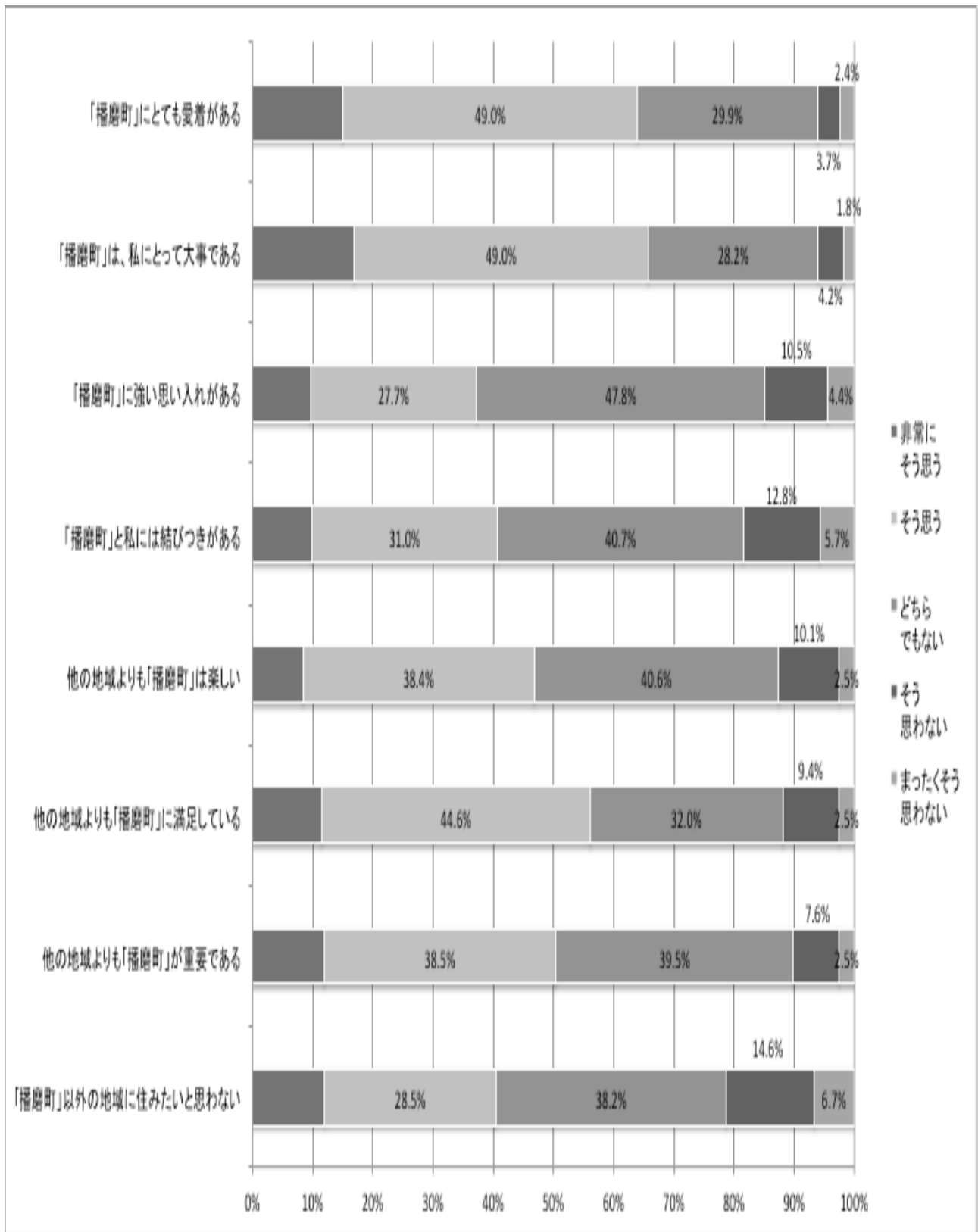


図 4-1 播磨町への愛着度

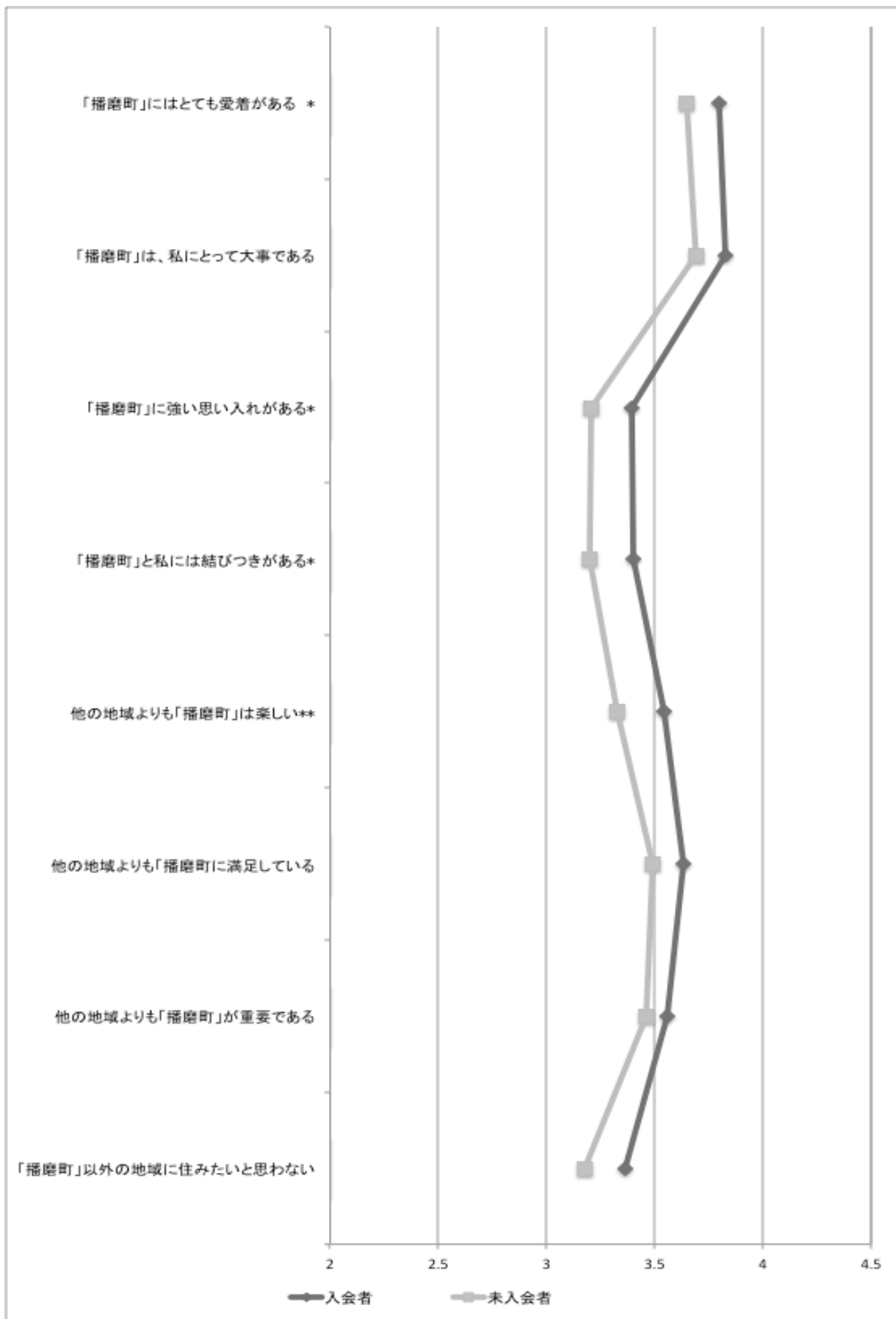
(2) 運動・スポーツクラブやチームへの入会・未入会と播磨町への愛着度

図4-2は、播磨町への愛着度について、運動・スポーツクラブへの入会者と未入会者による違いを示しています。

統計的な差異がみられた項目は、「播磨町にはとても愛着がある(入会者3.80、未入会者3.65)」、「播磨町に強い思い入れがある(入会者3.39、未入会者3.21)」、「播磨町と私には結びつきがある(入会者3.40、未入会者3.20)」、「他の地域よりも播磨町は楽しい(入会者3.54、未入会者3.33)」です。

「播磨町は、私にとって大事である」、「他の地域よりも播磨町に満足している」、「他の地域よりも播磨町が重要である」については統計的な差異はみられませんでした。入会者の方が未入会よりも高い数値を示しています。

このように、運動・スポーツクラブやチームへ入会している住民は、入会していない住民に比べて、「播磨町に愛着があり、強い思い入れがあり、結びつきが強く、他の地域より楽しい」ととらえており、播磨町に対して強い愛着を持っていることがわかります。



* p < .05 **p < .01 (統計的な有意差があります)

図 4-2 播磨町への愛着度 (運動・スポーツクラブやチームへの入会、未入会)

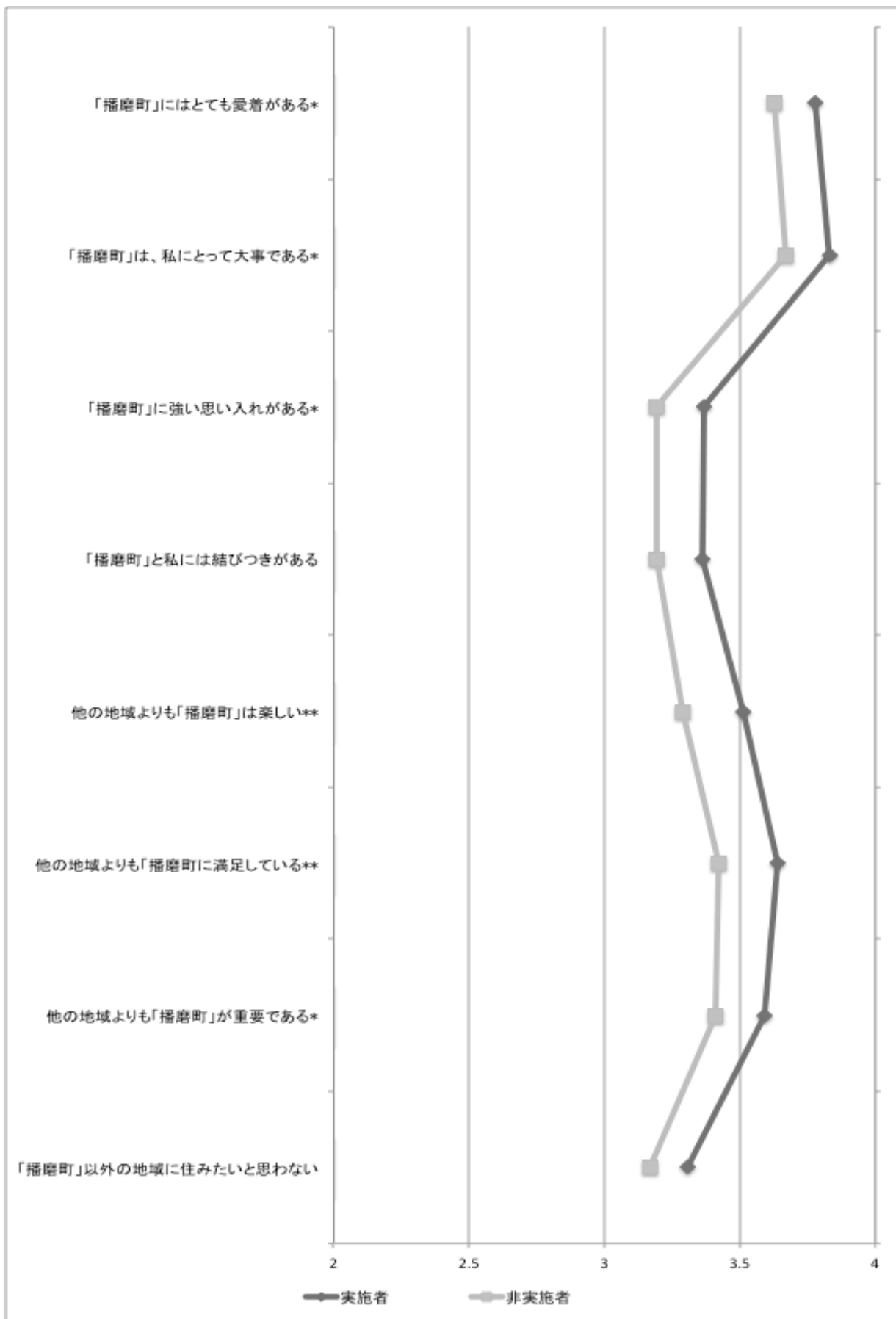
(3) 運動・スポーツの実施・非実施と播磨町への愛着度

図 4-3 は、播磨町への愛着度について、運動・スポーツの定期的実施者（週 1 回以上）と非実施者の違いを示しています。

統計的な差異がみられた項目は、「播磨町にはとても愛着がある（定期的実施者 3.78、非実施者 3.63）」、「播磨町は、私にとって大事である（定期的実施者 3.83、非実施者 3.67）」、「播磨町に強い思い入れがある（定期的実施者 3.37、非実施者 3.19）」、「他の地域よりも播磨町は楽しい（定期的実施者 3.51、非実施者 3.29）」、「他の地域よりも播磨町に満足している（定期的実施者 3.64、非実施者 3.42）」、「他の地域よりも播磨町が重要である（定期的実施者 3.59、非実施者 3.41）」です。

「播磨町と私には結びつきがある」、「播磨町以外の地域に住みたいと思わない」については統計的な差異はみられませんでした。定期的実施者の方が非実施者よりも高い数値を示しています。

このように、運動・スポーツ実施者は非実施者に比べて、「播磨町に愛着があり、強い思い入れを持ち、他の地域より楽しく、満足している」ことが分かり、播磨町に対して強い愛着を持っていることが明らかです。



* p < .05 **p < .01 (統計的な有意差があります)

図 4-3 播磨町への愛着度 (定期的運動・スポーツ実施者、非実施者)

5.まとめ

播磨町における運動・スポーツの現状と課題は、以下のようにまとめられます。

“するスポーツ”の現状と課題

- ・ 定期的運動・スポーツ実施者（週1回以上）の割合は46.1%であり、全国平均（58.3%）と県平均（54.5%）に比べるとやや低い。
- ・ 男性の定期的運動・スポーツ実施者は49.0%であり、全国平均（57.4%）と県平均（56.0%）に比べるとやや低い。
- ・ 女性の定期的運動・スポーツ実施者は44.1%であり、全国平均（59.3%）と県平均（52.3%）に比べると低い。
- ・ 男性の定期的運動・スポーツ実施者は49.0%、女性は44.1%であり、**女性の方が定期的運動・スポーツ実施者が少ない。**
- ・ 運動・スポーツ非実施者は22.9%であり、県平均（13.4%）より多い。
- ・ 運動・スポーツの無関心者は、20歳代（45.1%）と40歳代（47.3%）が多い。
- ・ 運動・スポーツの無関心者は、男性（28.0%）よりも女性（36.8%）が多い。
- ・ 今後行ってみたい運動・スポーツ種目の特徴は、「個人種目」、「健康・体力の保持・増進種目」である。
- ・ 運動・スポーツの阻害要因は、「時間要因」、「健康要因」、「態度要因」である。

“みるスポーツ”の現状と課題

- ・ 運動・スポーツの情報源は、「口コミ」、「メディア（新聞や雑誌、インターネット）」、「**スポーツクラブ21 はりま会報**」が中心である。
- ・ 運動・スポーツに関する情報ニーズは、「健康・体力づくり情報」（41.3%）、「**スポーツ教室・プログラムの案内**」（39.1%）、「**スポーツ施設の案内**」（38.3%）である。
- ・ 運動・スポーツ施設に対する要望をまとめると、「**スポーツ活動と文化活動の両方が行え、交流スペースが整備されている**」ことである。
- ・ 公共スポーツ施設に対する要望は、「**料金**」、「**利用時間の延長**」、「**利用手続きの簡素化**」、「**プログラムの充実**」である。

“ささえるスポーツ”の現状と課題

- ・ スポーツボランティアへのかかわりは7.0%であり、**県調査（8.4%）より低い。**
- ・ スポーツボランティアの活動内容は、「**地域のスポーツイベントの運営や世話**」、「**団体・クラブの運営や世話**」、「**スポーツの指導**」である。
- ・ 障がい者スポーツに関する情報発信が求められている。
- ・ 運動・スポーツを実施する際の**重要な他者（周囲の人）は、「家族」と「仲間**」である。

播磨町への愛着度

- ・ 運動・スポーツクラブやチームに入っている住民の方が**播磨町への愛着度が高い。**
- ・ 運動・スポーツ**定期的実施者の方が、非実施者より播磨町への愛着度が高い。**

第3章 播磨町のスポーツ推進政策

1. “するスポーツ”の推進

政策目標

- ・週1回以上の運動・スポーツ実施率が60%（現状45.1%）になることを目指します。
- ・週3回以上の運動・スポーツ実施率が35%（現状25.8%）になることを目指します。
- ・運動・スポーツクラブやチームへの加入率が40%（現状30.3%）になることを目指します。
- ・運動・スポーツ非実施者が10%（現状22.9%）になることを目指します。

重点分野1：幼児、子どもの実施者を増やします

幼児や子ども（小学生、中学生、高校生等）の体力低下が叫ばれています。その原因には「勉強や塾、習い事で忙しい」、「運動・スポーツのできる環境が少ない」、「一緒に運動・スポーツをする友達や仲間が少ない」といったいわゆる「3つの間（時間、空間、仲間）」があるといわれています。また、親の運動・スポーツに対する態度も幼児や子どもの運動・スポーツ実施に影響を及ぼします。

幼児や子どもの頃より運動・スポーツに親しむことは、運動・スポーツの日常化につながり、人生を豊かにします。

具体的施策

- ・町内の子育て支援グループと連携し、幼児や子どもの運動遊びを推進します。
- ・幼児や親子対象の運動遊び教室を開催します。
- ・子どもと家族と一緒に参加できるファミリースポーツを推進します。
- ・学校・園やスポーツクラブ21はりまと連携・協力し、運動遊びやスポーツの出前講座等を開催します。
- ・スポーツクラブ21はりまによる「子どもいきいきスポーツ教室」の開催を支援します。
- ・幼児や子ども対象のスポーツプログラムを構築します。
- ・幼児や子どものスポーツクラブ21はりまへの入会を推進します。

重点分野2：成人、高齢者の実施者を増やします

住民の過去1年間の運動・スポーツ実施頻度をみると、「週1回以上」の定期的実施者は46.1%、「週3回以上」の定期的実施者は25.8%となっており、全国の平均値（週1回以上58.3%、週3回以上30.2%）と兵庫県の前年度の平均値（週1回以上54.5%、週3回以上26.1%）に比べると下回っています。また、運動・スポーツ実施ステージでは、「現在運動・スポーツをしておらず、今後6ヶ月以内に始めるつもりもない」という「無関心期」にいる住民の割合が32.8%と、約3分の1を占めています。

運動・スポーツ実施の阻害要因をみると、「時間がない」、「健康上の理由から」、「何から始めたらいいかわからない」、「スポーツが苦手」、「スポーツに興味がない」、「スポーツをする

のが面倒である」といった理由が明らかになりました。阻害要因は「時間要因」、「健康要因」、「態度要因」に集約できます。

本町の成人や高齢者については、この「無関心期」から定期的実施者への行動変容が求められます。成人や高齢者は、一般的に健康に対する興味・関心が強いことから、運動・スポーツ実施と健康の保持・増進の視点から具体的施策を進めていきます。

具体的施策

- ・スポーツクラブ 21 はりまや医療機関との連携により、健康相談や健康・スポーツ教室を実施します。
- ・健康づくりや運動・スポーツに関する講習会やセミナーを実施し、健康づくりや運動・スポーツに対する興味・関心を高めていきます。
- ・一人でも気軽に参加できる教室やプログラムを開発・提供します。
- ・運動・スポーツを推進するための身近な環境整備を行います。
- ・成人や高齢者のスポーツクラブ 21 はりまへの入会を推進します。

重点分野 3：女性、障がい者の実施者を増やします

女性の「過去 1 年間の運動・スポーツ実施頻度」をみると、「行わなかった」が 26.2%と、4 分の 1 強を占めています。また、「運動・スポーツ実施ステージ」は「無関心期」が 36.8%と高い数値を示しています。さらに、女性の阻害要因をみると、「時間がない」、「健康上の理由から」、「スポーツが苦手」、「子どもがいる」、「家事が忙しい」、「スポーツをするのが面倒である」となっています。これらは「時間要因」、「健康要因」、「態度要因」、「育児・家事」とまとめられます。すなわち、多くの女性は運動・スポーツに「無関心」で、育児や家事で忙しく、時間がなく、運動・スポーツを実施できない傾向がうかがえます。

町民スポーツ意識調査（2011）の結果、障がい者については「運動・スポーツ施設のバリアフリー化」、「障がい者の運動・スポーツ施設の整備・充実」、「障がい者スポーツ情報の収集・発信」、「指導者の養成」等が求められていることから、次の具体的施策を進めていきます。

具体的施策

- ・公共スポーツ施設において、女性が運動・スポーツを実施しやすくするために託児機能を備えた場（プレイルーム等）を設置します。
- ・女性のための健康づくりや運動・スポーツに関する講習会やセミナーを実施し、運動・スポーツに対する興味・関心を高めます。
- ・学校や公共スポーツ施設における運動・スポーツ施設のバリアフリー化（ユニバーサルデザイン）を進めます。
- ・障がい者スポーツ指導者の養成に努めます。
- ・スポーツクラブ 21 はりまや子育て支援団体及び障がい者支援団体等との連携した事業を進めます。
- ・女性や障がい者のスポーツクラブ 21 はりまへの入会を推進します。

2. “みるスポーツ”の推進

政策目標

- ・運動・スポーツを観たり、聞いたりする住民の増加を目指します。
- ・運動・スポーツを通して幼児から高齢者までを見守る環境を整備します。
- ・運動・スポーツをきっかけにして自分のからだを診る（自分の健康状態を診る、知る）住民の増加を目指します。

重点分野1：身近なスポーツ環境を整備します

運動・スポーツを観たり、聞いたりするには、身近な環境に運動・スポーツ施設の存在が重要です。町民スポーツ意識調査（2011）の結果をみると、運動・スポーツ施設に対して、「公共のスポーツ施設の充実」、「自然と触れ合うことのできる施設の整備」、「スポーツ活動と文化活動の両方が行える施設の充実」、「交流スペースの整備」が求められています。

次に、公共の運動・スポーツ施設に対する要望をみると、「利用料金を安くしてほしい」、「施設利用手続きの簡素化」、「予約なしで参加できるプログラムの充実」、「高齢者向けプログラムの充実」、「利用時間（早朝、夜間）の延長」が期待されています。

具体的施策

- ・公共スポーツ施設において、スポーツイベントや教室等を観るスペースを整備します。
- ・学校や公共スポーツ施設の改修等を進めるとともに、公認施設の整備等を検討します。
- ・身近な運動・スポーツ環境の一つとして、常設のウォーキングコースを整備します。

重点分野2：スポーツ情報の収集・発信を充実します

町民スポーツ意識調査（2011）の結果をみると、運動・スポーツの情報源は「知人や友人」、「町の広報」、「新聞や雑誌」、「インターネット」、「テレビやラジオ」となっており、「口コミ」や「広報、会報」から運動・スポーツに関する情報を得ていることがわかります。また、今後はインターネットによる運動・スポーツ情報の収集の増加が見込まれることから、インターネット環境の整備が求められます。

運動・スポーツ情報のニーズについては、「健康・体力づくり情報」、「スポーツ教室・プログラムの案内」、「スポーツ施設の案内」があげられています。気軽に日常的な運動・スポーツに関する情報が求められています。

具体的施策

- ・さまざまな運動・スポーツ情報を収集し、ホームページや広報等に掲載します。
- ・インターネットを介した公共スポーツ施設の予約システムの導入を図ります。
- ・スポーツクラブ21 はりまに関する情報を発信します。
- ・ホームページ（播磨町、スポーツクラブ21 はりま等）を充実します。

重点分野3：「観る」、「見る」、「診る」スポーツを推進します

毎年1月には小学生から一般男女の多世代が参加する「播磨町ロードレース大会」が開催されており、町をあげて盛り上がりを見せています。また、「播磨町健康福祉フェア」が開催され、幼児から高齢者、障がい者の方々が参加でき、健康づくりのきっかけの場として機能しています。スポーツイベントを通して住民同士が見守り、健康関連イベントを通して自分のからだを診る（知る）ことのできる場が求められます。

そして、本町には小学部・中学部・社会人といった多世代のメンバーから構成されている硬式野球のチームがあります。また、中学校の陸上競技部では、全員がスポーツクラブ21はりまに加入し、試行的に小学生の陸上クラブと一緒に練習を行っています。今後このような「一貫指導体制」のさらなる構築が求められます。

具体的施策

- ・ロードレース大会や健康福祉フェア等を継続して開催します。
- ・スポーツクラブ21はりまとの連携・協働により中学校部活動等の充実を図ります。
- ・スポーツクラブ21はりま及び医療機関とスポーツ医・科学やスポーツリスクマネジメントに関する研修会を開催します。

3. “ ささえるスポーツ ” の推進

政策目標

- ・運動・スポーツ指導者の養成と活用を推進します。
- ・スポーツボランティアの育成と活用を推進します。
- ・運動・スポーツを通して他者とのつながりを深めます。

重点分野 1：指導者の養成と活用を推進します

指導者の存在は、運動・スポーツ実施に大きな影響を及ぼします。町民スポーツ意識調査（2011）によれば、運動・スポーツ現場における「適切な指導者の存在」が不十分であることがうかがえます。運動・スポーツの定期的実施者を増加し、運動・スポーツ非実施者を減少させるためにも、年齢、体力、技術レベル等に応じた指導者の量的・質的向上が求められます。また、ボランティアでスポーツの指導を行っている住民が少なくないことから、スポーツボランティアの育成が期待されます。

具体的施策

- ・行政やスポーツクラブ 21 はりまは、運動・スポーツ指導者講習会を開催します。
- ・行政やスポーツクラブ 21 はりまは、高齢者の健康づくりリーダーを養成します。
- ・行政やスポーツクラブ 21 はりまは、障がい者スポーツリーダーを養成します。
- ・行政やスポーツクラブ 21 はりまは、子どもの運動遊び指導者を養成します。

重点分野 2：スポーツボランティアの育成と活用を推進します

運動・スポーツ実施やスポーツイベントの運営等にはスポーツボランティアの存在は欠かせません。町民スポーツ意識調査（2011）によると、スポーツボランティアの活動状況は、「日常的な活動（地域のスポーツイベントの運営や世話、団体・クラブの運営や世話、スポーツの指導）」が多く、男性の活動はスポーツの指導が中心で、女性の活動は地域のスポーツイベントの運営や世話が中心です。

一方、スポーツボランティアへの参加意志をみると、「わからない」という意見が多くみられました。これは、スポーツボランティアの活動内容や活動場所等が明確になっておらず、スポーツボランティアの認知と理解が低いといえます。そこで、スポーツボランティアの活動内容や活動場所、活動時間等に関する情報提供と発信が求められます。

具体的施策

- ・スポーツクラブ 21 はりまにおけるスポーツボランティアの活動内容を明確にし、スポーツボランティアの育成を目指します。
- ・行政やスポーツクラブ 21 はりまは、スポーツボランティアに関する情報を積極的に発信します。
- ・行政やスポーツクラブ 21 はりまは、小中学生におけるスポーツリーダーを育成し、ボランティア活動を啓発します。

- ・行政やスポーツクラブ 21 はりまは、障がい者スポーツのボランティアを育成します。

重点分野 3：顕彰制度の充実を図ります

目標を設定し、達成度に対する顕彰制度が設置されていることは、運動・スポーツ実施のきっかけや、運動・スポーツ実施者のモチベーション（動機づけ）の向上につながります。例えば、ウォーキングは、日常的に手軽に実施できる運動・スポーツとして人気があります。本町においても「この 1 年間に実施した運動・スポーツ種目」と「今後行ってみたい運動・スポーツ種目」で第 1 位になっています。そこで、人気種目であるウォーキングを推進するためにウォーキングコースを設置し、表彰・認定制度を設定する等の工夫が求められます。

具体的施策

- ・「播磨町スポーツ賞」を見直し、充実します。
- ・「播磨町ウォーキングマスター（仮称）制度」を創設します。
- ・「播磨町スポーツボランティア賞（仮称）」を創設します。

4 . “ 連携・協働による好循環 ” の創出

政策目標

- ・行政、スポーツ団体と学校との連携・協働を推進します。
- ・行政、スポーツ団体と健康・福祉分野との連携・協働を推進します。
- ・行政、スポーツ団体と障がい者スポーツ分野との連携・協働を推進します。
- ・「はりまスポーツフォーラム」を創設します。

重点分野 1 : 行政及びスポーツ団体と学校との連携・協働を推進します

本町には、スポーツクラブ 21 はりま、播磨町体育協会、播磨町スポーツ推進委員会等のスポーツ団体が存在しており、非常に活発に活動しています。行政とスポーツ団体等が連携をとり、学校との協働を推進します。

具体的施策

- ・スポーツクラブ 21 はりまは、小中学校の部活動や体育の授業と連携し、外部指導者として指導やチームティーチングを充実します。

重点分野 2 : 行政及びスポーツ団体と健康・福祉分野との連携・協働を推進します

毎年 4 月 29 日に「健康福祉フェア」を行政及びスポーツ団体と健康・福祉分野が連携・協働し、開催しています。このイベントは、親子、多世代、障がい者等すべての住民が交流し、健康を考え、健康づくりの動機づけの機会を提供するものです。

このイベントの内容を年間を通して実施できるよう、創意工夫し実現に向け調整を進めることができるようなプランニングが求められています。

具体的施策

- ・行政やスポーツ団体は、健康・福祉分野との連携をさらに強化します。
- ・行政やスポーツ団体は、健康づくりの啓発の機会を強化します。
- ・行政やスポーツクラブ 21 はりまは、スポーツ医・科学に関する情報の収集・発信等、積極的に医療機関との連携を推進します。

重点分野 3 : 行政及びスポーツ団体と障がい者スポーツ分野との連携・協働を推進します

スポーツ基本法において、障がい者スポーツの推進について明記されました。このことを受け、本町においても行政及びスポーツ団体と障がい者スポーツ分野が連携・協働し、障がい者スポーツの推進にあたっていきます。

本町では、特別支援学校をはじめとして、障がい者の方々が運動・スポーツを行っています。障がい者の方々が身近に運動・スポーツに親しめる環境の整備が求められています。

具体的施策

- ・行政とスポーツクラブ 21 はりまは、連携・協働を進めることで、障がい者スポーツを推進

する組織体制を整備します。

- ・行政とスポーツクラブ 21 はりまは、障がい者が参加できるプログラムやイベントを充実します。
- ・行政とスポーツクラブ 21 はりまは、特別支援学校と連携し、障がい者の運動・スポーツ活動の支援を進めます。
- ・行政とスポーツクラブ 21 はりまは、障がい者が気軽にスポーツに接することができるプログラムの開発を進めます。

重点分野4：「はりまスポーツフォーラム」を創設します

本町では、これまで、行政やスポーツ団体、学校スポーツ関係者、スポーツ医・科学関係者、住民等が一堂に会する機会がなく、情報交換を行い、連携・協働を進めるための交流機会がありませんでした。

そこで、行政やスポーツ団体、学校スポーツ関係者、スポーツ医・科学関係者、住民等が交流し、スポーツ推進計画の基本理念（ヴィジョン）や使命（ミッション）等を共有し、自由に意見交換をする場として「はりまスポーツフォーラム」を年1回開催します。

具体的施策

- ・住民、行政、スポーツ団体、学校等が連携・協働し、交流する場として「はりまスポーツフォーラム」を創設します。

播磨町スポーツ振興基本計画検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 スポーツ振興法(昭和36年法律第141号。以下「法」という。)第4条第3項の規定に基づき、本町におけるスポーツ振興に関する計画(以下「計画」という。)を策定するにあたり、その基本的事項や内容等について検討するため、播磨町スポーツ振興基本計画検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、これからの本町における生涯スポーツ社会の確立に向けて、本町の実情に応じた計画等について検討を行い、その計画案を策定する。

(組織)

第3条 委員会は、委員15名以内で組織する。

2. 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 学校関係者
- (3) 社会体育関係団体代表
- (4) 社会教育関係団体代表
- (5) その他教育委員会が特に必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に規定する事務が終了するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は委員会の互選によって定め、副委員長は、委員長が指名する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が召集し、委員長がその会議の議長となる。

2 委員長が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会生涯学習グループにおいて処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

播磨町スポーツ振興基本計画検討委員名簿

	所 属 等	氏 名	備考
1	神戸大学大学院 教授	山口 泰雄	委員長
2	兵庫県立大学 准教授	伊藤 克広	副委員長
3	あんしんクリニック 院長	岩崎 安伸	
4	播磨南中学校 校長	福壽 実	
5	播磨南中学校 主幹教諭	奥野耕太郎	
6	播磨南小学校 校長	石井 勝彦	
7	東はりま特別支援学校 校長	細川 明子	
8	播磨町体育協会 会長	坂口 正信	
9	スポーツクラブ21 はりま 理事長	佐伯 正道	
10	播磨町スポーツ推進委員会 委員長	扇谷 一徳	
11	播磨町社会教育委員	藤原あやの	
12	福祉グループ 統括	佐伯 吉則	
13	すこやか環境グループ 統括	佐伯 省吾	

播磨町スポーツ推進計画

平成25年4月

発行：播磨町教育委員会

〒675-0182 兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号

TEL：079-435-0565
